

# 参加者印象記



グループ I A 氏名 赤星 璃

今回、このようなワークショップに参加させて頂き、本当に感謝しています。他大学の薬学部生と交流できる機会は今まで無かったので、様々な大学の同級生たちと意見交換できたことは非常に貴重な体験で、とても楽しいワークショップでした。参加者の学生は自分の意見とそれをきちんと発信する力を持っていて、有意義な時間になりました。タスクフォースの先生方にも学生同士の意見交換が活発に行われるように手助けして頂きました。将来への不安や、大学カリキュラム・実習を通して感じた医療現場への問題提起等、同年代であり、学んできた環境が異なるからこそ、本音で話し合えたように思います。自分と同じような悩み・考えの他に今まで自分で考えたことのないような意見や、地域性のある問題など、新たな視点を得ることが出来ました。今一度自分の意見を整理し、見直す良い機会だったと感じます。

また、今回のワークショップを通して、多くの友人を作ることが出来ました。この繋がりを大切にし、理想の薬剤師を目指して頑張っていきたいと思います。

グループ I A 氏名 小林 奈緒

学生ワークショップ全体を通して、多くの意見や価値観に触れることができ、とても刺激になりました。

テーマに対する考えを深めるだけでなく、大学ごとの特色や違いを実際に知ることができ面白かったです。全く知らない人との討論だったので、自分の学校の学部内での討論とは違い躊躇せず自分の意見を言い、討論ができたことが一番印象に残っています。その中で、思っている事を齟齬なく伝える難しさを実感しました。全員が薬学生という点で、まだ伝わりやすかった状況であったのかもしれませんが、それでも困難に感じました。このことから、今後、臨床の現場で患者さんや多職種に自分の思いを正しく伝えられるように、もっと伝える力を鍛えていかなければならないと痛感しました。

今回の経験は、今まで経験することのできなかつたもので自分自身にとってとても有意義な時間でした。初対面の人と一つのプロダクトを作り上げていくことがこんなにも楽しいことであると気付くことにも繋がりました。これからも、このワークショップで繋がった縁を大切に薬剤師として活躍したいと思います。

グループ I A 氏名 更科 壮太

本 WS に参加したことは、私の今後の人生にとってかけがえのない経験になると確信している。理由は大きく分けて2点挙げられる（1点目は薬学部生として、2点目はひとりの人間として）。

1点目は、日本全国の薬学部生と病院や薬局、大学の先生方に出会えたことである。同じ薬学部に所属していても、同じ話題に対する視点や考え方が異なることを肌で感じるこ

とができた。また、私と同じく大学院への進学を希望する同期に出会うこともできた。さらに、先生方とお話をする機会にも恵まれ、大変貴重な時間を過ごすことができた。

2点目は、情報交歓会の席にて本 WS 参加者の皆様が、私の誕生日（偶然にも WS 当日の 8 月 11 日）を急遽祝ってくださったことである。私事で大変恐縮だが、大人数での祝いという経験は初めてであり、ひとりの人間として非常に幸せな時間を過ごさせていただいた。

以上のように様々な背景をもつ方々をつながりを作り、コミュニケーションをとることができたことは、薬学部で培ってきた考え方だけでなく私の人生にも大きな刺激を与えた。本 WS は、私にとって忘れられない 2 日間となるだろう。このような貴重な機会を与えてくださった全ての方に感謝の意を表したい。

#### グループ I A 氏名 下反 淳平

先日開催していただいた、日本薬学会第 7 回全国学生ワークショップでは、非常に有意義な時間を過ごすことが出来たと実感しております。

私は薬剤師という仕事について、他大学の方々と、お話しをさせていただける機会は今までにありませんでしたので、とても新鮮な経験でしたし、自身の考えを深めるきっかけにもなりました。何より、グループ全体に話しやすい雰囲気があり、他大学の方々ともすぐに馴染むことができたため、それぞれの考えについて色々と語り合うことができ非常に楽しかったです。また、自身の将来像や、これから何をしていくべきなのか。などについても、今までにしっかりと考える機会は少なかったように思いますので、これらの事を改めて考えさせられたことは、今後の私の成長にも繋がるのではないかと思います。

総合して、この度の全国学生ワークショップに参加させていただけたことは、私にとって大きなプラスになったと実感しております。

#### グループ I A 氏名 田中 美帆

まず、このワークショップに参加するか悩んでこの印象記を見ている人へ。是非参加してください！また、参加が決まっているけど不安に感じている人へ。すごく楽しいので安心して参加してください！2 日間で多様な考えに触れることが出来た点だけでなく、全国にたくさんの知り合いが出来た点でも得難い経験だったと感じています。

今回のワークショップのテーマは「医療・社会への貢献 ~未来を語ろう~」であり、互いの進路や夢、社会のニーズと私たちの現状、ニーズを満たす薬剤師の理想像について SGD を行いました。特に印象深かったのは、私たちは現状の能力に満足せず、どのような力が不足しているのかを知るため、常に情報に敏感である必要があるという意見が挙げられたことでした。活発な議論を通して自分にはない考えを聴くことで、私自身に、問題意識を共有しその解決のために能動的に行動しようという意識が生まれました。さらに、今回得られた経験を他の学生と共有することや、私たちが実施すべきと結論付けたことに薬剤

師になってから取り組みその輪を広げることで、このワークショップがより活きるのだと思います。

グループ I A 氏名 火口 裕弥

日本薬学会第7回全国学生ワークショップを通して、様々な大学のさまざまな人の意見を聞くことができ、自分自身の考え方だけではなく、多様な考え方があることに改めて気づかされました。特に SGD では、自分だけでは気づくことができない視点からの意見を多く聞くことができとても有意義な時間を過ごすことができました。普段の学内の SGD では、議題に対して深くまで話し合うことがあまりできないような印象でしたが、様々な大学の学生が集まるこのワークショップでは、恥ずかしがることなく自らの意見を言うことができ、活発な SGD ができたように思いました。

この2日間を通して、薬剤師にはどのようなことが必要かつ大切なのかということが具体的にイメージでき、目指すべき薬剤師像がよりはっきりしたように思います。これまで以上に広い視野を持って勉学や生活をしていき、多くの知識を持つ、社会のニーズに合った薬剤師になりたいとより強く思うようになりました。

グループ I A 氏名 山下 佑麻

今回、このワークショップに参加して今までの大学における学びを再確認できたとともに全国から学生が集まっていたこともあり各地域における特色や長所・短所を知ることができ大変有意義な時間を過ごすことができました。今までこのようなディスカッションをしても同じ大学で同じ教育を受けているので意見が似通ってしまい活発な議論にならなかったりしていたが、受けてきた教育や地域が違っていると自分にはなかった意見や視点があり非常に良い刺激となった。一方で、同じ薬学部であるはずが講義内容に大きな差があったり、実習に関しても同じ SBO 評価で行なっているはずが実習施設によって実習内容や学生の満足度に大きな差がある事を知り、今後自分自身が指導者側に回った際にはこのような差が少しでもなくなるようにしていきたいと感じた。また、今のままのカリキュラムでは単に学生時代が長くなっているだけに思え薬学部が6年制になった意義があまり見出せていないように思うので、今回ディスカッションした内容も参考にして今後社会から認められ求められる薬剤師になれるよう自己研鑽に励みたい。

グループ I A 氏名 結城 友香子

様々な環境で学んできた各大学の同期たちと議論を交わした2日間のワークショップは、私にとって大変貴重な経験となりました。

私は、第二部「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か?」というテーマでの話し合いが特に印象に残っています。私たちの班では、6年間の学修を

通して現在の自分ができることと、ニーズを満たす薬剤師にできることを話し合った結果、現在の自分たちには実践に即した能力が不足しているのではないかという課題を導き出すことが出来ました。現在の自己のレベルを把握し、理想のレベルと比較することで自分に足りない部分が見えてくるという感覚は、とても新鮮であり、大切な気づきでした。

薬剤師は、生涯研鑽をしていくことが求められています。自分自身が向上心を持って学び続けるだけでなく、後進を育てていくことも私たちの大きな役割の一つです。今回のワークショップで得たことや自身の反省点を今後に活かし、社会貢献・後進育成に還元していきたいと思えます。また、このワークショップがさらにより良いものとなることを心から願っております。ありがとうございました。

グループ I B 氏名 石野 清亮

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と討論をすることによって自分の視野の狭さを痛感しました。討論を重ねていく中で、自分だけでは思いつくことが無かったような意見を聞くことが出来たり、また自分と相手の意見を止揚することにより、洗練された意見を生み出すことが出来たりと、理想的な討論だったと思えます。

薬剤師の将来は多岐にわたっています。今回だけでも病院、薬局薬剤師はもちろん、行政に務める方や研究を続ける方など、様々な方面に向かっていく方とお話しをさせていただきましたが、「どのようにしたら患者さんが良くなるか」という医療者としての根本は同じだと感じました。

進む方面は違えども、志を同じくする仲間が一堂に集まり互いに高めあうことが出来るこの経験は何事にも変えることのできない財産となりました。この様な素晴らしい機会を与えてくださったワークショップ運営関係者の皆様と参加者の皆様に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ I B 氏名 大越 優衣

全国の志高き仲間との交流を通じて、私自身の実力不足を痛感した反面、職域が多岐にわたる薬剤師に無限の可能性を感じました。

各々が目標や夢を達成するために歩いていく進路は異なりますが、根底にあるのは「患者の病気を治すこと、副作用から守ること。」ALL 薬剤師として多方面からアプローチすることができる「薬剤師」という職に改めて魅力を感じました。また、6年制薬学教育過程を修了した薬剤師として「日々変化し続ける社会のニーズを満たすことができる能力を身につけなければならない」という薬剤師に求められる生涯研鑽の必要性を感じ、そのためには多方面にアンテナを張り、多角的に考える力を養わなければなりません。

ワークショップを通して、新しい世代の私達が新たな薬剤師像を築き上げることにより社会のニーズを満たすことができるのではないかと感じました。互いに夢を語り合い、切磋琢磨していくことができる仲間との時間はわたしにとって刺激的な2日間でした。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タクスフォースの先生方や先輩方に心より御礼申し上げます。また、2日間共に過ごした仲間に深く感謝いたします。

グループ I B 氏名 落合 翔

オール薬剤師として各分野を越えた横のつながりを活かし、社会に貢献できればと感じた2日間であった。様々な立場から薬剤師について考え、そして活かしていくことができれば、薬学部を6年制とし実務実習を経験させたことにさらに意義があるのではないかと感じた。ただし、実務実習において所属大学や施設により学習内容に大きな差があると感じた。6年制として実習を必修化したのであれば、身に付けるべき内容を確認する意味で医学部の臨床実習終了後に実施されるOSCEのようなものを薬学部でも実施するなど、今後制度としての工夫が必要であると感じた。また実務実習中などに医学部をはじめとした他学部の実習生と関わり合う環境を作り、学生のうちからチーム医療を含めた薬剤師の活躍について考えることの重要性を改めて感じた。

今後私たちが経験を重ね、改めて様々な立場から薬剤師について議論をしていくことで、今後の薬学教育並びに薬剤師の職能について新たな意見を交わしていけるのではないかと期待が膨らんだ。最後となりますが、このような場を提供して下さった関係者の皆様、タクスフォースの先生方、そして共に議論をした友人に感謝御礼申し上げます。

グループ I B 氏名 西原 冨佳

私は今回の日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、多種多様な進路を考えている同期や、6年制課程卒業後に4年間の博士課程を修了した先輩方などとの出会いを通じて、進学するという決意を固めることができました。さらに教育講演から、まだ構築されていないだけで薬剤師の役割は多岐に渡ると感じました。このことから私は大学院での研究を通じて論理的思考を身につけた上で、医療現場に積極的に科学的・基礎的知見を取り入れることで新たな学問分野を切り開き、その先駆者として医療の発展に寄与したいと将来の希望を明確にすることができました。このように今回のワークショップは、全国の薬学生と討論する良い機会になっただけでなく、私の将来にも良い影響を与えてくれたと感じています。このワークショップを通じて出会った方々とのつながりを大切に、これからも薬学の発展に寄与できるような人物を目指したいと思います。最後になりましたが、私にこのような素晴らしい機会を与えてくださった大学関係者の方々、また今回のワークショップの開催にご尽力して下さった皆様方に深く感謝申し上げます。

グループ I B 氏名 前田 竜太郎

今回の WS に参加して、全国の同期とディスカッションできたことが貴重な経験になりました。昨年、実務実習に出るまでは他大学の学生と交流する機会が全くありませんでしたが、実務実習以降、薬学生団体や就活等で学生同士の繋がりができ学ぶ機会が増えました。今回は全員が同期ということで、共通で話せる話題も多く討議が盛り上がったと思います。未来に向けた目標や夢を語り合い、みんなそれぞれにやりたいことがあり将来を見据えていて素晴らしいと感じました。私も将来について発言しましたが、同じような道を目指している同期と出会えたことも嬉しかったです。そして、将来薬剤師として働きながらより多くのことを学んでいく中で、またこのメンバーと再会しさらに発展的な話をしたいとも思いました。

私は薬局薬剤師として地域に根差した薬剤師を目指しつつ、「ALL 薬剤師」という言葉を忘れずに、皆で学び高め合っていけるような関係を作っていきたいです。

最後にこの WS を運営してくださった関係者の皆様、参加に向け推薦してくださった大学の先生方に感謝申し上げます。

グループ I B 氏名 松村 永寿

この度は日本薬学会第 7 回全国学生ワークショップに参加させていただき、大変充実した 2 日間を過ごす事ができました。

私の就職先は人口も少なく都市部からのアクセスも非常に悪い地方の薬局で、一人薬剤師として働く予定です。先輩も同僚もない職場で、日々の業務を漫然とこなすだけの日々が待っているのではないか、そのような環境に身を置き続けることでいつかは薬剤師に求められる生涯学習を継続する意欲も風化してしまうのではないかと自分の将来に不安を抱いていました。しかし本ワークショップで全国の薬学生の熱意に触れ、彼らと今後も繋がっていける手段を得ることができ、その不安も払しょくされた気がします。今後も互いに刺激し合える高い志を持った仲間が全国にいることを肌で感じられたことは、私にとってかけがえのない財産になると感じています。

このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、そして同期の薬学生たちに心より感謝申し上げます。今後もこのワークショップが続いていくことを願っております。

グループ I B 氏名 宮原 有里

今回のワークショップでは、新たな知見や考えに触れ、刺激を受けただけでなく、私自身も自分の意見や意志をアウトプットすることで、自身の意志や認識を再確認することができたと感じる。

薬剤師のニーズを考えたとき、私達は最初、国民が今何を求めているか、ばかりを考えていた。しかし、話し合いを重ねる上で、「今あるニーズに応えているだけでは、世間の後追いになってしまう。能動的にニーズを作り、提供することでそれに応えられる存在であ

ることを知ってもらい、職能を発揮する場を構築し、国民へ利益をもたらすことが求められる。」という話に行きついたのは非常に印象的だった。これは SGD の後に講義を受け、その講義内容や先生のサポートをもとに今までのテーマの内容を更に深く掘り下げて討議していくという流れがあったからこそ、今までの自分達の考えだけでは行きつけなかったであろう結論にたどり着けたのだと思う。

普段はできない今回の貴重な経験を経て、本ワークショップに参加する前よりも、将来に向けての励み、活力が更に高まった。今回話し合ったことや、気持ちを忘れず、今後の糧にしていきたいと強く思う。

#### グループ I B 氏名 森山 保乃花

「楽しい」の一言に尽きる2日間でした。同じ志を持った仲間や、違うベクトルで熱い野望を持った全国の声を生で聞き、語り合えたことはまたとない経験です。自分の周りだけでは得ることのできなかった刺激的な話や経験を聞き、焼き付け、早く社会に今回の経験を還元したい！と心から思えました。笑って、話して、悩んで、全てにおいて真剣でユニークな仲間に出会えたことに感謝です。なんとなく、このメンバーなら全国のどこかで当たり前のように会える気がするねと最終日に話し合っただけで別れました。薬剤師は、自ら能力を最大限発揮し、患者さんだけではない、全ての国民のニーズに踏み込めるように能動的に動く必要があると痛感いたしました。その分、これから私たち ALL 薬剤師に求められていること、私たちができることの可能性の広さを感じ、より一層来年が楽しみになりました。この素敵なワークショップの仲間達と共に地域から、医療現場まで、盛り上げていきたいと思いました。ニーズの定まりきれていない可能性の広い薬剤師だからこそ、今後でもできることを常に考えていきたいと思います。さらに、来年しっかり薬剤師になれるように勉強面でも頑張っていきたいと思いました。

#### グループ I C 氏名 秋葉 健太

今回ワークショップに参加し様々な方の意見を聞いて、薬剤師としてどのような職種についても私たちの行動の先には必ず患者さんがいるということを再認識することができました。そして今一度、自分の目指す薬剤師像について考え直す良い機会となりました。

社会に求められる薬剤師として、最も大切なことは患者さんの立場で医療者にしてほしいことは何かを考え、薬剤の知識だけでなく患者の気持ちを聞き出す力、そしてそれを受け止める包容力であると学べました。実際に臨床の場に出たら処方薬だけでなく患者背景まで配慮し、どういったところに不安があるのか気持ちに寄り添った医療を提供したいと思います。そして個々の患者さんのレベルに合わせた服薬指導を行い、自分の疾患について少しでも理解して治療に積極的に取り組んでもらえるよう貢献していきます。そして私は患者さんの立場に立って気持ちを理解した、「自分だけにしかできない治療」を行える薬剤師になりたいです。

今回このような自分を見つめ直せる貴重な機会を与えてくださった他大学の学生や関係者の皆様に心から感謝しております。ありがとうございました。

グループ I C 氏名 古志野 利孝

今回のワークショップでは薬剤師の現状や今後の課題について、実務実習の体験談を交えながら、徹底的に意見交換および議論を行うことができた。日常の講義では専門科目が多く、予習や復習に追われがちで、将来の薬剤師像についてじっくり考えることは少なかったが、今回の WS では1日半かけて多くの人と意見交換できたので、薬剤師を目指す熱意が非常に高まった。

講演では、日本の現状と将来像、人口構成、薬剤師の置かれている現状などを学び、危機感を感じた。具体的に何をやればいいのかについて討議するものの、なかなか考えを具体的な言葉や行動で表現することは難しかった。それでも、全国各地から集まった学生間で意見を出し合い、地域ごとの薬剤師の現状や大学ごとの取り組みの違いについて情報交換する中で、地域や学校が違っても目指すべき薬剤師像は同じような方向を向いており、薬剤師を目指す学生各々が同じ旗印である「目指すべき薬剤師像」を目標に行動できると感じた。全国の薬学生が社会のニーズをしっかりとキャッチし、そのニーズにこたえる薬剤師になることができれば、将来に向けて課題の多い医療・薬剤師の未来も決して暗くはないと感じた。

グループ I C 氏名 西田 未奈

第7回全国学生ワークショップに参加させて頂くにあたり、全国の薬学生の方と交流ができるという期待とテーマが難しく発言できるのかという不安がいっぱいでした。

2日間の日程で、これからの医療や薬剤師についての話ができ、しっかり考えるよい機会となりました。学校ごとの取り組みの違いを知ることもでき、実習中に「災害時医療」を経験された方の話は勉強になりました。全ての討論において、積極的に発言する方が多いという印象を受けました。さらに、多様な考えをもつ仲間の意見を聞くことで、自身では思いつかない考えを学ぶことができ、新たな発見もありました。

参加できたことで、高い志を持つ人が多くいるということを感じ、貴重な体験ができました。このワークショップで学んだこと、感じたことを友人に伝えていきます。2日間過ごした仲間とは、これからも刺激し合いながら成長していきたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった大学の先生方、開催にあたり準備をして下さった関係者の皆様、討論中に良い導きを与えて下さったタスクフォースの先生方、一緒にワークショップを行なったグループの仲間感謝します。

グループ I C 氏名 服部 肇

実務実習を終え、進路がほぼ決まった薬学生が集うこのような機会は初めてで、様々な思いや意見の飛び交う空間が刺激的でした。WSを終えた後も社会のニーズを満たす薬剤師やそれに必要な教育とは何だろうとふと考える事があります。その際、教育講演で登場した「結果にコミットする」というパワーワードが思い出されます。患者さんの健康アウトカムに重きを置くと、例えば脂質異常症治療薬では、薬剤で LDL-C 値を下げるだけでは不十分で、それに因り死亡率 (=結果) が改善しなければ、患者の治療意欲にも直結しがたいのではないかと。地域医療に関しては、ハイリスク薬の外来処方増加に伴い副作用リスクがより高くなります。薬剤評価にも精通すべき職種であるからこそ、クリニックの医薬品採用に薬局が積極介入することも患者の副作用リスク軽減 (デッドストック減?) という結果につながるかもしれません。臨床経験に乏しい我々学生にとって、患者や地域に薬剤師が必要とされる為 (結果を出す為) のエビデンス構築や工夫を、先輩薬剤師の皆様方からご鞭撻頂くことが必要になるのではないかと思います。

拙文で恐縮ですが、最後に、このような機会を設けてくださった関係各位の皆様方に御礼申し上げます。また熱く議論を重ねた参加者の皆さんにもこの場を借りて御礼申し上げます。またどこかでお会いしましょう。

グループ I C 氏名 細井 麻由

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、他大学の多くの学生と交流することができたことは大変貴重な経験となりました。

グループ討議や講演会を通して、「今の自分に何ができ、足りないものは何か、これからの医療や社会に貢献するために今後どのように行動していくべきか」について考えるきっかけになったと同時に、メンバーの意見を聞くことで視野が広がりました。また、ワークショップ全体を通して、それぞれが違った環境の中で、違った経験をしてきた全国の薬学生と話し合うことで、自分にはなかった視点を知ることができました。一つの話題においても、それぞれが自分の価値観や考えをしっかりと持っており、積極的にお互いの意見を共有していこうとする姿勢にとっても刺激を受けました。今回のワークショップを通して得た出会いと経験を励みとして、社会に求められる薬剤師となれるよう日々努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者およびタスクフォースの先生・先輩方、そして多くの刺激を与えてくれた他大学の学生に心より感謝いたします。

グループ I C 氏名 松上 拓樹

本ワークショップは社会に求められる薬剤師という職業について仲間たちとともに考え有意義な時間を過ごすことができました。参加させていただく前は、全国から薬学生が集

まり交流する機会はほとんどないと思い楽しみにしておりましたが、開催される日が近づくにつれ緊張や不安が頭の片隅にありました。しかし、ワークショップが始まり仲間たちとディスカッションしていく中で、様々な考えや思いを話し合うことができ充実した時間を過ごすことができました。ディスカッションはもちろんですが、夕食や情報交換会も良い思い出となっております。各セッションでは答えのない議題に対して様々な視点から意見を出し合い、結論を出す作業は非常に難しく感じました。薬剤師がどのように社会に貢献していくか、私たちができることについて考える中で、ひとりひとりが今後の目標を明瞭にすることができ一回り成長することができた2日間であったと思います。

最後になりますが、本ワークショップに参加しなければ得られなかったことが数多くあり、志を同じくする仲間の重要性を感じることができました。2日間非常に多くの刺激を与えて下さった仲間たちや、このような素晴らしい機会を与えて下さった諸先生方に心から感謝しております。ありがとうございました。

#### グループ I C 氏名 藁谷 美保

今回参加した日本薬学会第7回全国学生ワークショップ（WS）での2日間は、私にとって新たな出会いと刺激に満ち溢れていました。このようなWSへの参加が初めてでとても緊張しましたが、同じコア・カリキュラムの下で学んできた者同士すぐに打ち解けあうことができました。

「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」というテーマのもと討論を重ねていくうちに、自分にはなかった経験や意見を知ると同時に、自分の経験や意見も伝えたいという気持ちがグループ内に共有されるのを感じました。結果的に、討論は盛り上がりより深く内容を掘り下げられ、将来、患者の健康にコミットしていくという目標ができました。今回のWSでの経験と同じ志を持った仲間との出会いは私の財産であり、今後の糧にしていきたいと思います。また、意見を交わしていくことの楽しさと重要性を再確認することができたため、大学の同期にも内容をフィードバックし薬剤師の未来について討論していきたいです。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった関係者の皆様、そして今回出会えた最高の仲間々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

#### グループ II A 氏名 大泉 杏奈

全国の薬学生と熱い議論を交わし様々な意見に触れられたことは、私にとって貴重な体験となった。同じ薬学生ではあるが、大学のカリキュラムや実習先による実習内容は多種多様であった。なかでも、実務実習先でのエピソードや取り組みについて情報交換でき、自分の見識を広げることができた。今まで他大学の学生と意見を交換する機会がなかったためとても有意義な時間を過ごすことができた。

本ワークショップでは「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」というテーマのもと、社会的ニーズを満たす薬剤師になるためには、薬剤師一人ひとりが何をすれば

よいのか、またその実現のためにはどのような制度が必要か、討議した。多くの参加者が共通して薬学だけでなくコミュニケーション等の技能、また知識の底上げの必要性を感じており、一人ひとりが大学卒業後も自己研鑽に努めることが社会的ニーズを満たすことができるという認識を共有できた。

最後に、日本薬学会をはじめワークショップ開催にご尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げたい。

グループⅡA 氏名 亀井 里歩

全国の薬学生と話す機会は非常に恵まれたことであり、学生としてだけでなく薬剤師になる身としても有意義な時間だった。実際に話してみてもまず語彙力や説明力に大きな差を感じた。大学内では考え方や言葉、発表方法にも偏りが出るため、他大学との交流の大切さを感じた。また地域によって医療連携の特色や規模が違い面白く感じた。その中でもある薬局では遠隔服薬指導が行われていたことは衝撃的だった。離島や僻地などでは薬剤師が不足しているためテレビ電話などを用いて家にいながら服薬指導を受けることができるというもので、高齢化が進む地方では非常に優れたものである。大阪ではそのような場所はほとんどなく、在宅医療を行える環境であるため遠隔服薬指導について知る機会も少ないはずだ。今後在宅医療がさらに求められる中、薬剤師の負担は大きくなるはずである。この遠隔服薬指導がこれから都市部でも利便性を活かし医療費軽減や患者への負担を軽減しつつ安全な医療を行えるようになることを期待している。

グループⅡA 氏名 菊山 史博

本ワークショップで一番に感じたことは、資質ある薬剤師を志す同世代の薬学生は多様な人材であふれているということです。ある意味人種の坩堝であり、皆が一丸となって課題を解決していく中で各々が自身の強みを発揮できる環境が整っていることの重要性を感じました。

薬剤師にとってどのようなスキルや知識、行動規範が必要かというテーマは教育や自己研鑽に於いて非常に重要かつありふれた話題のように感じていたものの、至極当たり前ではありますが「話し易い」或は「自身と異なった意見や感性を理解する」環境や姿勢があるだけで自身の価値観を揺るがすものになりうる、より良いプロダクトを生むことができるということを痛感しました。

裏を返せばすべての薬剤師が見据える目標、延いては医療全体の問題に取り組むにあたって新たな解決策を生む可能性を示唆したとも感じました。

高い問題意識や確かな知識を持つことは上記のことと比べれば容易であります。その確かな意識や知識から患者に貢献する新たな概念を生むことが今薬剤師に求められていることであり、このことは医療従事者全体が意見を交わし切磋琢磨する中で多様な価値観を受け入れ具体化することで達成されるのではないのでしょうか。

グループⅡA 氏名 西口 楓

この度は全国の大学から代表者が1名ずつ参加するというので、どんな人達に会えるのだろうと楽しみにしながらWSに参加させて頂きました。当初は緊張しましたが、World Caféでの自己紹介を兼ねた話し合いを機にすぐに打ち解けあい、ハイレベルな話し合いをすることができました。WSはとても楽しく、全国の意識が高い人達が集まったということもあり、1つの議題に対して多方面から参加者全員が独自の考えや意見を持ち、それを互いにぶつけ合う環境はとても自己研鑽となりました。

今回のWSを通じて、参加者は皆学んできた環境が異なるにも関わらず、今の薬学教育や働く現場について共通の問題意識を持っており、次世代を担う私達がそれをどう改善すべきかという使命感と責任感を持っていると実感しました。そして2日間という短い期間ではありましたが、WSを通じて全国に友達ができたことはとても大きな収穫であり、刺激の多い有意義な時間でした。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました関係者の方々、ならびに参加された各大学の薬学生の方々に深く御礼申し上げます。

グループⅡA 氏名 信江 利香

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と討論出来たことは貴重で有意義な時間でした。

WSでは、薬剤師に求められるニーズについて討論し、実習中の経験や大学の学びが多様であると知ることによって刺激になりました。特に全国から学生が集まっているため地域性を感じました。医療の格差や教育の違いは地域によって様々であり、今後社会に出てから活かしたいと感じました。また、日々変わっていく医療環境に対応できるよう柔軟な考えを持ち、広い観点から判断していきたいと思いました。

今回の討論を通じて、高い目標を持つ方々から刺激を受けることで、もっと視野を広げ学んでいきたいという成長への意欲を高めることができました。今まで気づくことができなかった意見に刺激や、意識の高さや、医療情報量の多さを感じて自分の考えの未熟さを痛感しました。今回の経験を活かして、自己研鑽に励んでいこうと思います。また、この貴重な経験を同期や後輩に伝えたいと考えています。

最後になりますが、この貴重な機会を設けてくださった日本薬学会の方ならびに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡA 氏名 平町 隆明

私はこの度のWSに参加する前と参加した後では大きく変わった思いが1つあります。それは、今後、薬剤師免許を取得し、社会に医療人として出ていく覚悟です。一つのテーマについて大学という垣根を越え真剣に話し合う中で、私は、私にはない発想・経験、自分の意見を他人にわかりやすく伝える力、また、聞く姿勢、相手を促し会話を広げる能力

などを肌を感じ、とても刺激を受けました。各々が今まで研究や課外活動、授業等の学生生活を自分の目標のために本気で過ごしたことを会話の中で節々に感じました。私は、自分なりに努力し薬剤師として働くために自己研鑽に励んできました。しかし、今回のセミナーを終え私はまだまだ他のメンバーと比べ未熟だと気づき、それに負けずさらに自己研鑽に励み社会に貢献できる薬剤師になりたいと思いました。今回出会ったメンバーは、敵ではなくお互いに切磋琢磨し合う良い仲間だと思い、残りの学生生活を送り、自信を持って医療人になりたいと思いました。とても良い経験になりました、実行委員の先生方ありがとうございました。

グループⅡA 氏名 嶺井 雄志

私がワークショップを通して一番強く思ったことは、それぞれの地域や大学によって医療環境や薬剤師、訪れる患者もそれぞれだということです。例えば、私の住む長崎ではあじさいネットというネットワークで患者情報を共有していますが、カルテまでは見ることはできないのに対し、香川県では見ることもできるといった話を聞きました。また、薬局のデザイン面から患者の居心地の良い空間を作ろうという発想を持った人や、人工知能の開発をしている会社へ就職するという人もいたり、自分では思いつきもしなかったことを考えている人たちと議論をすることで、より広い視野を持つことができました。私は沖縄での就職が決まっていますが、本土と離れている環境ではどうしても画一的な考え方になるかと思います。ですが、このワークショップを通して全国ではどのような人たちが医療に携わっていて、どんな活動をしているのかを知ることができたので、より広い視野から患者のために行動できるようになれると思います。

グループⅡA 氏名 吉田 尋耶

2017年8月11～12日に開催された、第7回全国学生ワークショップに、私は参加した。今回のセミナーを通して、各大学の6年生と情報交換を行い、そこで出会った学生それぞれの創意的な意見や見識に感銘および刺激を受けた。また、今回議論した薬学分野における医療において顕著な地域特性が見られたのが印象的であった。

テーマ設定が今日的な問題を扱っており、このテーマを第一部から第四部まで議論するにしたがって、議論内容が深化していく場に立ち会えたことが感動的で、今後地域医療に携わっていく人間として考えるきっかけを多く与えられた。

今回の議論参加に制度上、各大学から1人しか体験できなかったことは、このワークショップの瑕疵であるように思えた。このような貴重な経験は6年制の薬学生に広く共有されるべきだと感じた。それを実現させるための方策としては、ワークショップに参加した学生がその内容を各出身大学に持ち帰り、参加出来なかった在校生を対象に独自のワー

クショップを開催することが考えられる。このような事が実現できれば、全国学生ワークショップの理念に合致し、たいへん有意義な事だと思う。そのためには、各大学で授業単位にするなど、在校生の参加を促す工夫が必要であると感じた。

グループⅡB 氏名 宇田 有沙

学生ワークショップに参加して、他大学の人との意見交換を行ったり、厚生労働省の紀平先生のお話や神戸大学の平井先生のお話を聞くことで、薬剤師としてどうなりたいか、どのようにするべきかを深く考え、意識を高めることができたと思います。

特に、グループでの話し合いは、全員が意見を出し合い、社会に求められる薬剤師について考えることができました。実習先や大学によって学んだこと、経験したことが異なるため、様々な意見が出て良い討論ができたと思います。

また、紀平先生の地域包括ケアのお話を聞き、地域医療に貢献したいという思いが強まりました。私は、薬局に就職が決まっており、将来的には地域での大規模なカンファレンスや勉強会に参加するなど積極的に患者さんのためになるような仕事をしたいと感じました。その中でも、医療従事者の役割は患者さんの病気を治すこと、健康をサポートすることということを忘れずに「薬をみて人を見ず」にはならないよう、薬剤師として自覚と責任をもって行動しようと思います。

今回、参加することで、薬剤師としての意識も高まり、全国に同期の仲間ができてよかったです。とても楽しい2日間でした。

グループⅡB 氏名 太田口 義智

日本薬学会第7回全国学生ワークショップ（以下 WS）に参加させていただき、全国の薬学生と議論を交わすことで多くの刺激を受けた2日間となりました。大学内で勉強しているだけでは得ることのできない考え方や知識、将来の目標像など自分自身悩んでいた面に大きく影響し、早く薬剤師になりたいという思いがより一層深まりました。

各議論テーマにおいて、私のグループ内でも多くの意見を聴くことができました。今までそれぞれの大学で学んできたことは同じかもしれませんが、同じ経験をしていても感じ方は人それぞれです。このことを実感させるような熱い議論を行うことができたように感じます。今回のように同期であり同じ志をもつ方たちが一堂に会する機会はそうそうありません。この先、本 WS に参加した方と胸を張って会えるように日々の自己研鑽に努めようと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けて下さった関係者の方々、そして2日間共に過ごした仲間に感謝申し上げます。

グループⅡB 氏名 河合 洋幸

2017年8月11日から2日間、東京で行われた日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただきました。私の大学では研究方面に重きを置く方が多いため、多様な考えを持つ他大学の学生と意見交換ができる機会に期待を寄せていました。

ワークショップは薬剤師の医療貢献・社会貢献をテーマとして、医療業界および社会から求められるニーズを考え、そのニーズを満たすために必要なスキルや制度について議論するという内容でした。幸いにも班員やグループの仲間に恵まれ、時間が足りなくなるほど深く活発に議論することができました。議論を通して、自分の大学では得られないような意見や問題提起、解決案が数多く挙げられ、知見を広められたと思います。

教育講演では厚生労働省と神戸大病院前薬剤部長の先生方に講演していただき、薬剤師に将来期待される技能や、生涯研鑽の重要性について理解を深められました。

先生方と学生達が一体となってワークショップを盛り上げ、大変実りある2日間でした。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の先生方、共に過ごした同期生の方々に心より感謝致します。

グループⅡB 氏名 小林 千華

今回のワークショップを通して自分の視野が広がったように感じた。これから薬剤師として求められること、またそのニーズに対して自分達ができることをテーマに行ったディスカッションは、それぞれ違う大学や実習先で得たもの、感じたものが意見に反映されていた。その分、自分の知らない情報や言葉も多く戸惑うことが多々あったが、どのテーマにおいても時間が足りないと思うほど充実したディスカッションだった。講演会では大変貴重なお話を伺うことができ、今後私達がどのような志をもって薬剤師として活躍すべきか、考えさせられた。病院や薬局、企業、行政など薬剤師として活躍できる場は多岐に渡り、それぞれの道を歩んでも、このように集まって今後の薬剤師としての在り方について話し合う機会がさらに増えたら薬剤師という社会的地位の確立、資質向上につながるのではないかと思った。最後に、全国学生ワークショップの開催にあたり尽力してくださった先生方、関係者の皆様方、そして二日間共に過ごした薬学生の皆様に深く感謝致します。

グループⅡB 氏名 瀧澤 聡

今回のワークショップでは、各々の大学での特徴的な薬学教育プログラム、各々の特徴ある臨床現場での実務実習などで培った、多種多様な考えを持った全国の薬学生たちと意見交換・議論ができたため、とても刺激的で実りある2日間でした。

これまで、同じ県内で薬学生同士交流する機会があったものの、このような全国規模の場で意見を交え真剣に討論した経験はなかったため、WSを通じて、考えを共有したり、様々な価値観に触れることができ、自分の将来に繋がる貴重な経験となりました。中でも3段階に分けて討論された「理想の薬剤師は何が求められ、そこへ向かうためには何をす

べきか」は、他学生の主観も交えより現実的に考えることができたため、この討論で得たことを常に思い浮かべ、将来に向けて精進していきたいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さりました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後も WS のような全国の薬学生の交流の場が増えていくことを願っております。そして、実りある議論を交わした II B の仲間に感謝致します。

グループ II B 氏名 内城 研吾

今回、日本薬学会第 7 回全国ワークショップに参加させていただきありがとうございました。全国各地から学生が集まり、ディスカッションや意見交換など大変貴重な体験ができました。

2 日間と短い時間でしたが、学内では体験することができない他大との交流により新たな発見や自分の視野の狭さを感じました。グループワークでは、初対面なのに臆せず自分の意見を言い合えるメンバーが集まり、それぞれの意見や考えを述べ、討論することによって、より良い考えが生まれることがありとても刺激的なディスカッションをすることが出来ました。この 2 日間は最初から最後までとても刺激的で濃密な時間を過ごせました。

今回のワークショップを通して、全国には多くの頼もしい仲間がいることを実感することが出来ました。この経験を活かし、薬剤師として社会が何を求めているのかを常に考え精進していかなければならないと感じました。この度は、このような大変貴重な機会を設けて頂きありがとうございました。

グループ II B 氏名 野添 亜美

失礼ながら、私は、薬学教育について討議するこのようなワークショップの存在を、今回先生からお声掛けいただいて初めて知りました。そして、今回参加させていただき、私の大学でももっと多くの学生がこの会を知って、積極的に参加できれば良いと思いました。それは、この会でお会いした学生の皆さんの、医療に対する熱意や向上心に触れ、薬剤師として志を同じくする心強い仲間を得た感じがしたからです。会を終えて日が経った今でも、2 日間のことを思い出すと、将来に向けて私も頑張ろうというモチベーションになります。会に集まった方一人ひとりが、異なる大学でそれぞれ貴重な経験をされ、ディスカッションを通じてそれらを共有できたこと、また今後求められる薬剤師になるためには何が必要かを一緒に考えられたことがとても嬉しく、楽しかったです。自分の意見を伝えるのが苦手な私ですが、皆さんのお互いを理解する温かな雰囲気がとても話しやすく積極的に議論に参加できました。

あっという間でしたが、大変有意義で充実した 2 日間となりました。関わった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡB 氏名 山本 花菜

2日間にわたり日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、多くのことを考え、学び、有意義な時間を過ごすことができました。全国から集まった学生と討論をすることに初めは緊張していましたが、ワールドカフェを通してすぐに打ち解けることができたように思います。SGDでは、限られた時間の中で意見を出し合い、他者が見ても理解できるようにまとめ上げることがいかに難しいかを改めて実感しました。討論において、自分にはない考えや意見をたくさん聞くことにより、違う視点から物事を見ることの大切さに気付きました。また、それと同時に、自分の語彙力・表現力の無さ、発信力の弱さを痛感しました。しかし、どんなことでも言葉にして伝える勇気があれば、耳を傾けてくれる人がいるということに気付くことができたため、一步成長できたと感じています。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただきました日本薬学会関係者の皆さま、タスクフォースの皆さま、共に討論をしてくれた同期に感謝いたします。

グループⅡC 氏名 越智 富美江

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させて頂き、他大学の方々・卒業生の先輩方などと様々な経験や想いの共感・共有、および講師の先生方のお話を通し、新しい視点の発見が多く、刺激的な二日間でした。

薬剤師として社会に出る前に、様々な場面に薬剤師に求められているニーズ、そのニーズを満たす薬剤師となるために必要なものを考え、議論する機会を頂けたことで、将来自分がどのような行動を取るべきかを整理でき、得るものが多くありました。目の前の患者さんのニーズを満たしていくことを大切にしながら、できる限り社会の中で薬剤師に求められるニーズについても意識できる薬剤師になりたいと思います。

また先生方のお話より、薬剤師の本質的な意味での仕事や、必要な資質、生涯研鑽の必要性について考え、薬剤師として常に成長していく姿勢や大切さについて理解しました。今回得た視点や心構えを、残りの学生生活、来年度からの薬剤師人生に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会の開催にあたりご尽力いただいた皆様、議論を交わした参加者の皆様に、厚くお礼申し上げます。

グループⅡC 氏名 児玉 章弘

今回のWSを通して、学んだことは「木を見て、森を見ずのWSと薬剤師」です。

他大学との交流という点において非常に有意義な時間を過ごすことができ、誠にありがとうございました。

しかし、SGD の内容については、全て期待はずれであり、もしも今回集まった学生ならびに委員会に属する方々、先生方が今回の WS に満足されているのであれば、今後の薬剤師の立場を維持するどころか下がっていくと私は感じました。

あくまで一意見ではありますが、今後もしも WS をご継続されるのであれば、生産性・将来性のある WS にしていただきたいと思い、私が不満に感じた点を述べさせていただきます。「木を見て、森を見ず」、まさに今回の WS がそれにあたると考えます。

「社会は、薬剤師に何を求めているか（ニーズ）を考えてみよう」というテーマがありましたが、まずこのテーマ自体が後手、受動的なテーマだと感じます。薬剤師に限らず、どのような業界においても、ニーズというのは求められてから対応しているようでは遅く、ニーズを生み出すことで存在価値は生まれます。わかりやすく例えるなら、iPhone は、誰も想像していなかった（求めてすらいなかった）タッチパネル・アプリを通して多様な機能を持ったツールとして、存在価値を生み出しました。生産性のあるテーマにするには、「社会に対して薬学生はどのようなニーズを生み出せるか」といったテーマの方が、今までになかった薬剤師の存在価値が生まれる可能性が高く、何より議論が弾み、発想豊かな薬学生が議論する意味があると考えます。今回のテーマで、地域医療、健康サポート、高いコミュカ・専門知識等にニーズがあるといった結論が多く上がったように、これらの結論であれば、わざわざ各大学から学生を集めなくても各大学で到達できる結論であり、今回の WS を開催する意味はないと私は考えます。専門薬剤師制度ができたから、専門知識を身につける、健康サポート薬局制度ができたから、相談できる様な体制を整え、健康・OTC 等の勉強するといった結論が決して能動的ではなく、いかに後手であり、受動的な結論であることを一度疑っていただけると幸いです。一方、私が提案したテーマであれば、健康サポート薬局といった狭い世界ではなく、安価で誰でも始められる薬剤師 YouTuber として定期的に日本中からの健康相談にのる、SNS 等を利用するなどといった、今の社会に合った学生らしい発想を生み出す機会が生まれる可能性が高いと私は思います。逆に学生らしい柔軟な発想を今回のテーマは殺しているという認識を持っていただけると幸いです。批判的な意見はあると思いますが、法律・制度があるから、医師会等からの圧力があるからを前提に議論するのであれば、学生に議論させる意味はないと思います。各大学から様々な進路が決まった学生を集めたことで多様性のある議論になっていると錯覚されている方がいれば、それこそまさに「木を見て、森を見ず」の状態であることを認識していただき、本質を捉える力・問題意識を持つ力を持った薬学生が少ないこの状況に危機意識を持つべきだと思います。

私はこれまで他業界（ベンチャー、金融、教育、診断薬）、製薬等を見て、それらの SGD を経験してきたからこそ、今回の WS の内容がいかに本質を見失っているか気づくことができました。同時に今回の WS を通じて、今の薬学部・薬剤師に最も欠けている点は、他

職種・他業界との接点がなく、多様な考えを知らないこと・「木を見て、森を見ず」状態であることだと気づくことができ危機意識を持つことができました。

また議論がいかにも本質を見失っているかの別の例として、「ニーズを満たす薬剤師になるために何をすべきか」、その答えにコミュ力が高める、論文を読む書く・研究をする・学会に参加する、勉強等自己研鑽するといった提案がありましたが、これらの理想論で議論が止まったことに違和感を覚えました。逆になぜ今の薬剤師のほとんどがそれらのことができていないのか、それらの提案を満たすことで果たして本当に薬剤師が社会から必要とされるのか、インプットだけでなく社会へのアウトプットにいかにしてつなげられるか等、そこまで議論を落とし込むことでようやく本質を掴み、価値のある議論になると私は考えます。またこの時、他職種連携といった提案がありましたが、この他職種がさす相手が医療人に限られていたことがまさに今の薬学生が「木を見て、森を見ず」状態であることを象徴しています。医療業界は木であり、森は他業界、そして世界です。例として、文系の人たちがどういった考えを持って社会で活躍しているのか（ケーススタディの欠如）、役割が異なる世界の薬剤師の姿（特にカナダの薬剤師）や薬学部出身者がどういうキャリアを経験しているのか、世界にニーズを生み出すためには？そこが森だと私は考えます。

最後に今回のWSの最たる目的が「他大学の薬学生との交流を深める」ことであれば、おかげさまで十分に達成することができ、感謝を申し上げますと同時に、目的を誤解して今回のWSに参加したことを深くお詫びいたします。私は進路が企業であるため、正直なところ今後の薬剤師の立場にあまり興味はありません。それでもこの様な貴重な機会をいただいたため、おそらく少数派の私の意見が新たな視点として、少しでも皆様の力になればと思います。

グループII C 氏名 清水 智仁

——ワークショップで話した理想は、大切な初心である。

ワークショップが終って、しばらく考えて思ったことです。社会のニーズを満たすための理想的な薬剤師は、自分が今まで見てきた薬剤師とはかけ離れた存在でした。正直、終わってすぐは、現実性のない理想論だけを話していたと思っていました。現状の薬剤師がニーズに答えられないのは、個人ではどうしようもない問題が多いと考えているためです。

理想のために、目の前の患者様を犠牲にするわけにはいきませんし、他の医療スタッフも全力で目の前の患者様に向き合っています。薬を通すために、どうしても患者様の意識が薄れるのは、現状の薬剤師の弱点だと思います。

しかし、現実と向き合いながらワークショップで語った理想を実現できれば、薬剤師はもっともっと社会に貢献できるはずです。その遠い理想を目指す上で、今回話し合った内容は大切な初心なのだと思います。

今後私は、物流業界の薬剤師として社会に貢献していきます。直接的に患者様や衛生に関わる機会は少なくなりますが、6年制薬学部で実習を行った薬剤師として、現場の視点を意識しながら業務に関わっていきたいと思います。

グループⅡC 氏名 角野 拓海

本ワークショップを通して様々な大学の、また進路に進む学生の方々とたくさんテーマを通して意見交換、交流を行うことができ、貴重な充実した日々を送ることができました。

一日半で計四部に分けて私の夢、これからの医療や社会に貢献するために必要なもの、そして生涯どのように学んでいくかと段階を踏み自身に足りないもの、それを補っていくための手法など振り返り、考えることができました。

私の進路は薬局であり、就職活動を通して薬局業界に関しては勉強している面があったのですが、病院をはじめ薬局業界以外での薬剤師の役割を勉強する機会に乏しく、ディスカッションで挙がる意見すべてが新鮮な情報となりました。今後の反省としては様々な業界で活躍する薬剤師の役割を考え、薬局薬剤師としてどう関わりを持ち、社会に貢献していけるのかを勉強することであると考えます。

このような貴重な場を提供いただきました日本薬学会・日本薬学教育学会関係者の皆様をはじめ、紀平哲也先生や平井みどり先生等本ワークショップの主催に関わったすべての方々に感謝の意を表したいです。

グループⅡC 氏名 長峰 由樹

今回のワークショップは自分にとって非常に有意義なものであったと感じました。特に滅多に関わることができない他大学の学生と交流することで、自分とはまた違った価値観や意見を知ることができました。また多くの方が将来薬剤師として何をしたいか、あるいはどうなりたいか、など自分の意見を持っておられました。非常に意識が高くそれが自分にとっての刺激、励みとなりました。

ワークショップの内容として「医療や社会に貢献するために自分たちに必要なもの」や「社会のニーズを満たす薬剤師」が印象に残っています。普段あまり考えることがないため、今回討論する機会があり非常に良かったです。これからの薬剤師に必要な知識や求められている能力を自分たちなりに導き出すことができました。

ついていくのがやっとの2日間でしたが少しでも自分の意見を発信でき、他大学の学生から貴重な意見を得ることができました。「薬剤師の仕事は患者の病気を治すこと」、この意識を持ってこれからも勉学に励み将来薬剤師として活躍していきたいです。

グループⅡC 氏名 南雲 美奈代

この度、日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させて頂き、2日間という短い期間ではありましたが、密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。他大学の薬学部の方と意見交換し合えたことは、自身の将来を改めて考える上でとても貴重な機会となりました。また、ディスカッションを通して自分が今まで目を向けていなかった問題に気付くことができ、より広い視野で物事を考えることが出来ました。参加学生の意識の高さを感じると共に発言力や行動力も持ちあわせており、同じ薬剤師になる身として、置いていかれないように今後さらなる努力が必要であると感じました。

今回出会った仲間は社会に出て、病院や薬局、企業、行政など様々な道に進みますが、社会に貢献していく沢山の仲間に出会えたことをとても嬉しく、今後もこの繋がりを大切にしていきたいと思いました。

最後になりますが、今回このような素晴らしい機会を与えて下さいました日本薬学会の先生方、並びにタスクフォースとして参加して下さいました各大学の先生方、6年制薬学部の先輩方、関係者各位の皆様には厚く御礼申し上げます。また、2日間共に過ごした同期の皆様にも深く感謝致します。

グループⅡC 氏名 畑澤 莉奈

私は、このワークショップに他大学の学生としっかり交流できるだろうかと不安に思いながら臨みました。タスクフォースの方々が和やかな雰囲気を作ってくれたことも相まって、緊張しすぎずにスムーズな流れで参加でき、思っていたよりも早く周囲になじめたと感じています。

スモールグループディスカッションで話し合った結果を他のグループの前で発表する機会をいただいたのですが、限られた時間の中で課題について結果をまとめ、グループのメンバーとどのように発表するかの相談が不十分で、満足いく発表ができず、メンバーに対する申し訳なさを感じ、悔いの残る結果となってしまいました。

失敗してしまったと思うこともありましたが、活発なディスカッションへの参加や他大学の授業の様子や実務実習についての情報交換を通じて、滅多に経験のできない有意義な時間を過ごすことができたと思います。ワークショップで経験したことは、在学中および卒業後にどう学んでいくべきかを考える良い機会となり、とても刺激を受けた2日間となりました。

グループⅢA 氏名 天野 郁子

第7回全国学生WSに参加させていただいて一番楽しかったことは、一緒に議論し、未来を考えることのできる人ばかりがいたことです。学内で議論できる人というのは限られており、うまく意見できないけれども意見を持っている人への配慮も常々必要だと感じていました。しかし、このWSでは参加者全員が積極的に意見できる人であり、議論に推進力を感じることができました。

一方で、様々な地域や国立・私立から参加しているということから、受けてきた教育や背景の違いというものも実感しました。その中でも印象的だったのは福島や熊本の被災地の学生です。神戸は災害医療を考えるきっかけとなった街ということもあり、実習先でも多くの震災の経験談と、災害時に動けるための準備活動について知る機会がありました。しかし、実際に自分が被災したわけではなかったため、近年に起きた震災と被災地での実際の対応について同年代の生の話を聞くことができ、とても勉強になりました。1日半と短い期間ではありましたが、今後、各自の現場に出た後も、医療・災害現場に向き合える仲間と出会えたのではないかと思います。

グループⅢA 氏名 岡田 悌明

この度は全国学生ワークショップに参加する機会をいただき大変感謝しています。全国にある薬系大学の同学年の学生とこの様に長い時間、薬剤師の職能について意見し合った経験は今までになく、とても良い刺激となりました。今回のワークショップのテーマは「医療そして社会への貢献～私達の未来を語ろう～」ということで、社会の需要に応えるために薬剤師に必要な能力と、その能力を得るためにどう行動すべきかを考えました。私は卒業後の進路として臨床現場で働くことを選択したので、この2日間を通して臨床の薬剤師として業務を行う上で重要となる基本的能力は何か、また今の自分には何が足りないのかを整理することができたと考えています。ワークショップをきっかけとして、視野を広げて薬剤師の職能に対する自分自身の考えを見直すと共に、他の学生の多様な意見に刺激され、卒業後に待つ薬剤師としての人生に対しての意欲を高めることができたと感じています。

グループⅢA 氏名 越智 万優子

「なるほど、そういう考え方もあるのか」私が今回の全国学生ワークショップに参加させていただいて、グループのメンバーに対して何度も感じたことです。ディスカッションを重ねていく中で、それぞれの学生にその考えに至った理由・経緯などを細かく聞いていくと、それらの価値観は主にそれぞれが通う大学で受けてきた授業によって形成されているのかもしれないということに気付くことができました。私は、2日間を通してこのような沢山の事を学ぶことができ、非常に良い刺激になりました。この経験から、大学によって授業の内容が異なるのだなということに気付けたと同時に、今回のように各大学から代

表者が集まって意見交換をする場はとても貴重で重要であるなと感じました。今回このような貴重な経験をさせていただいたことを感謝するとともに、日本薬学会全国学生ワークショップ運営関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 工藤 碧美

今回のワークショップに参加させていただき、大変中身の濃い時間を過ごすことができました。私は、ほとんど他大学の学生と交流する機会はありませんでしたが、ワークショップを通して同じ学年の薬学生がこんなにも高い意識を持って薬学の道を歩んでいることを知り、とても刺激を受けました。自分の薬剤師像や現在の薬学教育など、さまざまな意見を聞き、私にとってはとても新鮮なものばかりで、これまでの自分の視野がとても狭かったことを実感しました。グループ討議では、たくさんの意見が次々と出てきて、本当に楽しかったので、今回参加して本当によかったと感じました。今回経験したことを活かして、これから薬剤師になってからも自分から積極的に活動していこうと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、日本薬学会の皆様、タスクフォースの先生方に心より御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 國安 和仁

今回、第7回全国学生ワークショップ(以下WS)に参加して本当に数多くのものを得られました。その中でも特に大きかったものは、具体的な未来を考えるきっかけと今回知り合えた仲間達との繋がりです。

WSに参加する前の私には、漠然とした、人の役に立てる薬剤師になりたいという願望と、今後薬剤師の業務を変えていかななくてはいけないという思いがありました。しかし、グループ討議で理想とする薬剤師になるため大学卒業後何をすればよいかを考えた際、自分の想像に具体性がないことを痛感しました。まだ、なにをすべきかの答えは出ていませんが、具体的なビジョンを描けるよう頑張りたいと感じました。

また、今回のWSで他の大学の話を聞いて、大学によってこんなにも学ぶ環境が異なるのかと驚く場面が多々ありました。今回知り合った各大学の同級生達は頭の回転の速さ、発表の上手さなど、自分よりずっとレベルが高くて見習いたいことばかりでした。今回のWSがなければ出会えなかったであろう、尊敬できる仲間との繋がりを得られたことは自分にとって非常に大きな収穫です。

最後になりますが、今回のWS開催にご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 後藤 千尋

「ALL 薬剤師」一。WSの開会式で初めて耳にしたこの言葉の意味と、そこに込められた、限りない可能性こそが2日間のWSで得た一番の収穫だった。「薬剤師になる」という

夢を追い続けて過ごした6年間だったが、社会が薬剤師に何を求めているのかということはこれまでほとんど考えたことがなかった。今回のWSを通じ、志を同じくする同期たちと、「これからの自分たちに何が求められているのか」、「これからの自分に何ができるのか」を議論できたことは本当に有意義だった。他大学の学生同士で意見を出し合う中で各々の経験に基づいた様々な観点に気づくことができ、自身の6年間を見直すと共に、視野を広げて将来を見据えることができたと思う。

社会が薬剤師に求めていることは、実臨床における知識、技術的なことから、生活の質を上げ、健康寿命を延長させること、医療費など行政に関わることなど非常に多岐にわたることが理解できた。そしてその一つひとつが、薬剤師だからこそ応えられることであり、将来、どのような環境で働くことになっても「薬剤師として社会に貢献する」ことこそが私たちに与えられた使命だと再確認した。「ALL 薬剤師」の一員としてその使命を全うしたい。

#### グループⅢA 氏名 宮崎 公輔

今回、日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と意見交換を行い、交流を深めたことはとても貴重な経験となりました。

「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」というテーマのもと社会のニーズを満たす薬剤師にはどんなことができるか、そのために生涯どのように学んでいくかについて各グループでディスカッションを行い、様々な意見に触れることができました。学ぶ環境が違う分、考え方などが異なり充実したより良い話し合いができ、とても刺激的でした。

教育講演では、今後の薬剤師に求められることや生涯研鑽の必要性について話を伺うことができました。これから薬剤師として生涯研鑽を行い、能動的に社会に関わっていくことが重要になると感じました。今回のワークショップでの経験や繋がりを大切にし、社会に貢献する薬剤師を目指して研鑽を積んでいきたいと思えます。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方に心より御礼申し上げます。

#### グループⅢA 氏名 森 安大

学生ワークショップに参加して、全国の薬学生とお話しすることができました。今までの6年間の生活の中で他の大学の薬学生と意見を交換したり、大学の環境を聞いたりする機会がほとんどなかったため、とても新鮮でした。私立大学の学生にとっては、国立大学出身の薬学生と触れ合う機会はなく、とても貴重な2日間を過ごすことができました。ワークショップでは同学年の薬学生の皆がどのような教育や実習を受けてきたのか、その上でどのような薬剤師を目指しているのかを聞くことができました。第一印象として、就職先や進路は違っても、集まったすべての薬学生が目指すべき薬剤師像はほぼ同じで

あり、同じ方向を向いている、ということでした。ワークショップではこれまでの学んできたことを振り返り、社会のニーズと擦り合わせる、という内容でしたが、グループのメンバーで盛んにディスカッションすることができ、限られた時間でしたが、充実したプログラムを作り上げることができたと感じています。

全体的にとっても充実したワークショップだったと感じています。また、ワークショップを運営して下さいました先生方、先輩方に感謝します。

グループⅢB 氏名 笠原 優世

今回、日本薬学会全国学生ワークショップに参加させていただき、日本全国の薬学生の同期と話し合う機会を持てたことは、私にとってかけがえのない有意義な時間となりました。私はどちらかというと人見知りをする性格なので、初めて会う人たちとうまく議論に参加できるか最初は不安を感じていました。しかし、いざ始まってみると、すぐに打ち解け、自然と意見を出し合うことができ、楽しくワークを行うことができたと思います。また、自分とは異なった視点や考えを持っている同期の意見に触れることができ、多くの刺激を受けることができました。ワークはかなり自由度が高く、こういった方向に話をまとめるのが難しかったのですが、その分班ごとに全く異なった特色が出ていて、発表の場も楽しむことができました。

二日間と短い間でしたが大変密度の濃い時間を過ごすことができたと思います。今回のワークショップで得た経験を今後活かしていけるよう、より一層精進して参りたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生・先輩方・同期の皆さまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループⅢB 氏名 北野 智愛

第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、他大学の学生と質の高い意見を交換できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。各部の活発な討論や教育講演等を通して、「薬剤師が社会のニーズに応えるためにできること」に対する自分の考えをより深めることができました。薬剤師は患者さんや地域の方々、他職種のスタッフに能動的に関わっていくべきだとグループ内で共通認識をし、志の高い同志たちが現場で活躍をすれば、今よりさらに良い医療が提供できるという確信を得ることができました。考え方の根本を理解した専門家となり、責任感と覚悟をもった薬剤師になれるよう今後も絶えず努力していきたいと強く思えた2日間でした。今後の進路は様々ではありますが、各々が目標をもち、その目標に向かって今しかできないことをやるという姿勢は皆同じであることが認識でき、よい刺激を受けました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬学会・日本薬学教育学会をはじめ、今回のワークショップ開催にご尽力いただきました皆様に心より御礼

申し上げます。

グループⅢB 氏名 白石 ちひろ

全国の薬学生が一斉に集まり、医療そして社会への貢献のため、未来を語った1泊2日。100分のSGDでのグループワークの時間が短いと感じるほど、濃いものとなりました。3チーム合同での発表・質疑応答では、自分たちが知恵を振り絞って出し合い、まとめた意見とは全く視点の異なるアイデアが他グループで挙げられていたり、自分たちの発表に対して活発に意見が出たりと、時間が足りない、もっと考えを聞きたいと感じる発表は初めてでした。他大学の学生との交流を通じ、大学ごとに漢方の実習やOTCの実践講義・薬害の被害にあわれた患者さんと接する機会が設けられてあることなど、大学ごとでカリキュラム・制度の違いが大きいことに衝撃を受けました。厚生労働省の方・現場で働く薬剤師の方の講演を聞くことで、知識があつての信頼ではありますが、免許がなくても頼りにされるような薬剤師になりたいという思いが強くなりました。とても濃い1泊2日でありましたが、これからあらゆるフィールドで活躍する仲間と出会えたことは、これからの人生の糧になると確信しています。

グループⅢB 氏名 竹内 健悟

今回、第7回全国学生ワークショップに参加させていただき、グループディスカッション、他大学の薬学生との交流で、たくさんの刺激を受けることが出来ました。そして全国に切磋琢磨し合える仲間ができたことが何よりもの財産となりました。目指す方向、将来像は違えど、全員が社会のために薬剤師として何が出来るかを考えることで、たくさんの発見と気づき、共有をすることが出来ました。一方で、「社会が求めているのか、それとも自分たちがしたいのか」、を考えることの重要性も学ぶことができ、常に社会ニーズに敏感な薬剤師になりたいと強く思いました。今回のワークショップを通して、薬剤師、薬学生全体でこのような機会が増えていくこと、そしてそこで得たことを実践し、還元していくことが何よりもの社会貢献なのではないかと感じました。最後になりましたが、このような貴重で、素晴らしい機会を与えて下さった日本薬学会の関係者の皆様ならびに、タスクフォースの先生方、先輩方には心より御礼申し上げます。そして、2日間共に語り合った仲間に深く感謝いたします。

グループⅢB 氏名 東 麻奈美

私はこれまで他大学の薬学生と話す機会があまりありませんでした。今回のワークショップを通じて話をしていく中で、大学によっていろいろと違いがあることに驚かされました。

今回のグループ議論を通して、私が痛感したことは、薬剤師が社会から何を求められているのかということこれまで狭い範囲でしか考えられていなかったことです。また、私はディスカッションに不慣れのため、議論の場で自分の意見を明確に伝えることの難しさを感じました。PBPM など聞き慣れない言葉もあり、他の学生の意見を聴くことで、自分の視野が広がったように感じました。

薬学部教育で薬の知識を学ぶだけでなく、薬剤師としての心構えや医療人としての責任感・覚悟などを身に付け、さらに薬剤師としての職能を発揮するためにも、医師、看護師など他の職種では気付きにくい事柄を能動的に行うことが大切だと学びました。私は今回のワークショップを通じて大変貴重な経験をすることができたと思います。

#### グループⅢB 氏名 藤原 賢典

今回の全国学生ワークショップに参加して、全国の薬学生と話し意見の交換ができたことはとても刺激になりました。今まで他大学の方と話す機会がほとんどなかったので良い経験になりました。議論のテーマは薬剤師に対する社会のニーズはどのようなものかまたそのニーズを満たすためにはどのような薬剤師になればよいのかというものでした。ワークショップに参加する前は自分が将来どのような薬剤師になりたいかあまり定まっていなかったのですが、他の方々の意見を聞いて議論しどのような薬剤師が社会に求められているのかを考えることによって自分が薬剤師としてどのようなようになっていけばよいのかについて考えが深まりました。議論の中ではこれからは他職種と効果的に連携することが重要であるという意見がよく出ており、そのためにも学生のころから他学部の学生と一緒に学べる機会が多く欲しかったと思いました。今回のワークショップで感じたことをこれからの薬剤師としての成長に活かしていきたいと思います。

#### グループⅢB 氏名 森田 朱莉

密度の濃い、しかしながらあっという間に過ぎた2日間でした。様々な環境で学んできた学生の話や考えを聞いたことはとても新鮮でした。自分とは違う視点から物事を見ている学生もいて、視野が広がったように思います。また、初対面ではありながらも多くの学生が気さくに話してくれてとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

議論や先生方の講演を通して、自分自身疑問に思っていた「今後どのような薬剤師になるべきか」という問いに対し少しだけ答えが見えたような気がしました。自分の働き方次第では多くの可能性があるように感じました。今回「社会が薬剤師に求めているもの」や「生涯どのように学んでいくか」に関してディスカッションしましたが、話し合っただけで終わらせるのではなく、来年度、臨床に出てから少しずつでも実践していきたいと思います。

自分自身を見つめなおすことのできた有意義な時間でした。貴重な機会を頂きありがとうございました。

グループⅢC 氏名 吉瀬 宏樹

私はこれまで、他大学の薬学生と意見交換をするこのような場に参加したことがありませんでした。しかし、このワークショップの話を頂いた際に、全国の学生の現状や、志を知ることは私の今後を考える上で、大変貴重な経験になると感じ、参加させて頂くことにしました。実際、このワークショップで体験した World café や SGD では、意識の高い学生ばかりで、多様な意見が飛び交うとても刺激的な議論を進めることができました。一方で、思いを言葉や文字にすることの難しさや、薬剤師を取り巻く社会の制度についての知識不足から、具体的な提案を行う難しさを知りました。ただ、紀平哲也先生による教育講演「今後の薬剤師に求められること、期待されること」の中で、薬剤師が医療に対して能動的に関わること（またはその意志）の必要性を強く感じました。その意味で、今回のワークショップでは皆が能動的に意見を出し合い、それぞれの意志を感じられる議論が進められ、非常に有意義なものとなりました。

最後になりましたが、今回のワークショップ開催にご尽力頂いた皆様、また活発な議論を共にした多くの仲間に深謝申し上げます。私自身、この経験を活かし、生涯研鑽を実行できる薬剤師になれるよう今後の医療に関わっていきたいと考えています。

グループⅢC 氏名 熊谷 奈々

今回このワークショップに参加させていただき、とても貴重な経験をする事が出来ました。今までの学生生活で他の薬学生と関わる機会はとても少なく、ほとんど初めての経験でとても緊張していましたが、World café において参加者の皆さんの経験や目標を聞き、刺激になったとともに打ち解ける事が出来ました。

ディスカッションでは「社会が薬剤師に求めていることはなにか」について中心に討論を行いました。班の皆さんの意見を聞くことで視野が広がったと共に自分も大変成長出来、とても充実してました。また、情報交換会ではディスカッションのテーマ等は関係なく、他の薬学生の学生生活や就職活動の話等、より深い話をする事が出来ました。今まで考える機会があまりなかった薬学教育について深く考える機会を頂けたことに、とても感謝しています。ここで得た仲間はとても貴重であり、今後も様々な意見交換を行えたらと思います。

最後になりますが、この様な貴重な場を設けて頂きました関係者の皆様、より深いディスカッションが行える様力を貸して下さったタスクフォースの皆様、また、貴重な意見を聞かせてくれた参加者の皆さんに感謝致します。1日半、ありがとうございました。

グループⅢC 氏名 下中村 雅

今回の第7回全国学生ワークショップには、70の大学から様々な背景を持った学生が集まりました。このワークショップでは、6年間の学修の成果や決定した進路における目標

などを話し合うことで、自らの成長と仕事への熱意をお互いに確認することができました。これは私にとって1つの大きな収穫となりました。

私は当初、「薬剤師」の将来について語るこのワークショップで、有益な議論に貢献できるか自信がありませんでした。しかしながら、薬剤師に求められているものや、それを満たすための行動・サポート体制などについて、自分の意見を他のメンバーとある程度共有することができました。

議論していくうちに、薬剤師だけではできないことも多いということに改めて気づかされました。この感覚はワークショップの冒頭にお示し頂いた「オール薬剤師」の精神に通じるものだろうと考えています。私は薬剤師以外の進路を選びましたが、薬剤師の方と協力して仕事を行う機会もあると思うので、この感覚を大切にしながらキャリアを積んでいきたいと思います。

#### グループⅢC 氏名 大聖 貴之

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに北海道薬科大学学生代表として、2日間参加させていただきありがとうございました。

大学内では実務実習を含め、多くのことを学んだつもりでしたが、今回のワークショップに参加することで、今まで話し合うことのできなかつた『社会が求める薬剤師のニーズ』について議論することができました。全国の薬剤師を目指している学生と意見を交わすことで、自分の持つ薬剤師像を具現化することができたと思います。将来の自分自身の姿を想像できることがこんなにも良い刺激になるとは思いませんでした。意識の高い同じ境遇の仲間がいるとわかるだけで、頑張れる意欲にもつながりました。

今回のワークショップで出会った仲間は、大学や住む地域が違うが、薬剤師として日本の医療をより良いものにしたいという思いは同じでした。このような仲間が全国にできたことを強く誇りに思います。また、このような貴重な機会を与えてくださった、日本薬学会の関係者の皆様及びタスクフォースの先生方に深く御礼申し上げます。

#### グループⅢC 氏名 仲條 嵩久

第7回全国学生ワークショップでは、「医療そして社会への貢献 ～私たちの未来を語ろう～」をテーマに、全国の薬学生とディスカッションを行いました。理想の薬剤師像と6年制教育を受けてきた私達を比較することで、まだまだ身に付けるべきスキルがあることを痛感しました。議論や質疑応答における一つひとつの意見には、自分たちの経験が反映されていて、多方面から議論することができたと思います。それと同時に、コアカリキュラムは同じでも、大学ごとに教育内容に大きく違いがあったことが印象的でした。

ワークショップ全体を通して、それぞれの歩んできた軌跡を共有することは、お互いに刺激になり、モチベーションの維持・向上につながるものでした。この二日間はとても有意義であったと思います。この経験を活かし、ALL薬剤師として社会に貢献したいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を頂けたこと、心より感謝申し上げます。

グループⅢC 氏名 三浦 美香

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、SGDはこれまでに何度も経験してきましたが、初めて会った人に自分の考えや意見を伝えることはとても難しいと感じることもありました。学んできた環境の異なる他大学の方達と意見交換することで、1つのことに対して様々な視点からの考え方があること、1人では1つの意見でも、多くの人が集まることで何倍にも何十倍にも広がり、話し合うことはとても楽しく、意識の高さを再認識し、刺激を受けることができました。

また、病院薬剤師、薬局薬剤師、研究者やMRなど薬剤師として様々な働き方があっても、患者さんのために、薬剤師としての専門性とより良い医療の提供を目指していることを知り、何を求められているか考えることで、より具体的に今の自分にできること、今後できるようになるために必要なことを学ぶことができました。

そして、疑問をもつこと、その疑問を解決しようと学ぶこと、そして成長し続けることの大切さを改めて感じることができました。

2日間、とても充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

グループⅢC 氏名 村木 麻美

ワークショップに参加して特によかったと感じたことが3点あります。1つ目は、地域や大学の枠を越えて同じ志を持つ仲間と交流することで、様々な視点や考え方を知ることが出来たことです。たくさんの友人が出来ました。2つ目は、意見をまとめ、アウトプットすることの難しさを改めて知れたことです。コミュニケーション能力には対話だけでなく、客観的に伝える技術が必要だと感じました。3つ目は生涯研鑽の内容です。平井先生のおっしゃった、「ヒトは元来学習、研究する意欲をもつ生き物である」という言葉がとても印象的でした。社会人になってもこの気持ちを忘れず、学会や勉強会に積極的に参加し、街の科学者として研究にも携わりたいと考えています。好奇心を持ち続け多くの情報を吸収し、また発信できる人になっていきたいと感じました。

以上を含めワークショップで得た考え方や意見、たくさんの友人を大切に、今後の薬剤師としての生活に活かしていきたいと思います。個人的には、近い将来、語学堪能になって日本で生活する外国人の方とも円滑に交流していきたいと考えています。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

## 卒業生印象記



## 第2回参加者 小嶋 崇弘

全国学生 WS には6回目の参加となります。このような素晴らしい会を継続して開催して頂いている先生方、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

今回 WS に参加し、6年制教育の浸透に伴い薬局薬剤師、病院薬剤師としての心構え、考え方、関わり方など自分たちが学生だった時よりも格段に進歩していると感じた。その一方でその他の職種にイメージが付き難いのか、他職種から見た意見がなかなか議論されなかった事は少し残念に思う。医療の中心は患者様であることは疑いようのない事実だろう。その患者様の「不」を取り除くべく様々な職種が関わることもまた事実だろう。医療には医師、看護師といった医療従事者はもちろんだが製薬メーカー、卸、ケアマネージャー、カルテなどのシステムエンジニアなど想像している以上に多くの職種が関わる。薬薬連携と言われるように薬剤師同士の関わりだけでなく、他の医療従事者、それを支える多くの関係者の方々に対し、幅広い視野を持って自分から一歩寄り添っていける薬剤師になればと感じる。まだまだ課題は山積みです！！WS という素晴らしい機会を頂き、志を共にする仲間と切磋琢磨し、様々なことに取り組んでいけたらと思う。

## 第2回参加者 相良 篤信

ワークショップ卒業生として6年生の討論の様子を見学させていただきありがとうございました。「医療そして社会への貢献 ~私たちの未来を語ろう~」というテーマで活発な討論をしていた学生を見て、私自身大変刺激を受けることができました。テーマの幅広さから多様な意見が出る中でも、時間内にしっかりとプロダクトをまとめあげていたことが印象的でした。7期の学生がどのように考えているかを知ること、改めて初心にかえらせていただくことができました。これまでは大学院生として参加させていただいておりましたが、今回病院薬剤師としての立場から討論を伺えたことは、実務実習の学生を指導する際に必要なマインドも併せて勉強させていただけました。

最後に卒業生に貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の先生方に深く御礼申し上げます。

## 第4回参加者 津倉 秀幸

今回私は見学を中心に参加させていただきました。今年のテーマは社会のニーズとそれに合わせた生涯研鑽、現在医療の最前線で戦っている私にとっては即答出来ないといけない内容であり一応自分なりの答えをイメージして見学させていただきました。ディスカッションを見学する中で現実的ではない意見も散見されましたが、夢があって素敵だなと感じました。正直に言えば少し疲れていた心にやる気が補充されました。彼らに負けないよう成長を続けたいと思います。

7期生に直接伝えられなかったので、自分なりの考えをここに記載させていただきます。「自己研鑽の為に論文を読むのはいいことですが、あなたは正しい論文を探せますか？正

しく理解できますか？正しく批判できますか？」私が入職後3年間で身に付けた論文の捉え方です。この考え方について誰かとディスカッションをしてみたいです。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様と先生方、自分の気持ちに喝をくれた第七回 WS 参加者、WS 卒業生の皆様にこの場を借りて感謝を送らせていただきます。本当にありがとうございました。

#### 第6回参加者 上嶋 仁美

去年の第6回ワークショップに学生として参加し、今年は卒業生として参加させていただきました。学生の討論を聞きながら、去年の自分は何を言っていたのだろうか、と思いつ返し、今の自分なら何を言うだろうか、ということを考えながら見学させていただきました。まだまだ、私の視点は学生側の立場であったと感じていますが、社会人となり病院薬剤師として働きはじめて、新しく見えてくる部分もありました。今回のワークショップを通して、社会に求められる薬剤師になるために、生涯研鑽の重要性を強く感じました。まだまだ未熟ではありますが、学生実務実習を通して少しずつ還元できるものはしていきたいです。さらに、このワークショップは卒業生の先輩方とも意見交換をすることで、新しい発見ができる場所でもあり、多くの刺激を受けることができるので、今後も参加していきたいと思います。

最後になりましたが、今回もこのような素晴らしい場を提供してくださった全国学生ワークショップ実行委員会の先生方をはじめ、学生の皆さん、卒業生の皆さんに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

#### 第6回参加者 大平 奈穂

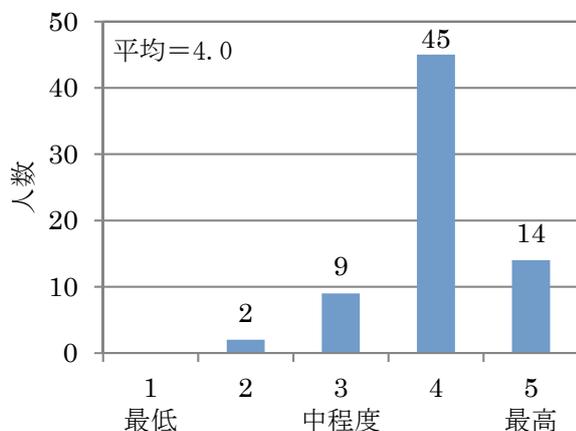
この度は第7回全国学生ワークショップに参加させていただきありがとうございました。都合により1日目のみの参加だったため、すべてのグループのディスカッションや発表を聴くことはできなかったのですが、実務実習、特に薬局実習での経験が薬学生に大きな影響を与えているということ薬学生の言葉から感じました。薬局薬剤師として今後実務実習に携わるであろう私にとって、薬学生に大きく関わる・影響を与える立場にあるということ強く自覚させられるものでした。また、普段の業務に追われるとつい忘れそうになる、薬剤師として重要なことを薬学生から教えられ、気を引き締めて翌日からの業務に臨んだ次第です。

今回初めて卒業生として参加し、卒業大学以外の大学の先生方や全国の薬剤師・薬学生と意見を交わす場があるということの素晴らしさを実感しました。しかし、人見知りを発揮したために、意見を交わす機会を自分からあまり作れなかったことがとても残念でなりません。今回薬学生として参加された皆さん含め、全国のWS参加経験のある薬剤師とたくさん意見交換できることを次の夏の目標・楽しみとし、日々薬剤師として医療や社会のニーズにこたえるために努めたいと思います。

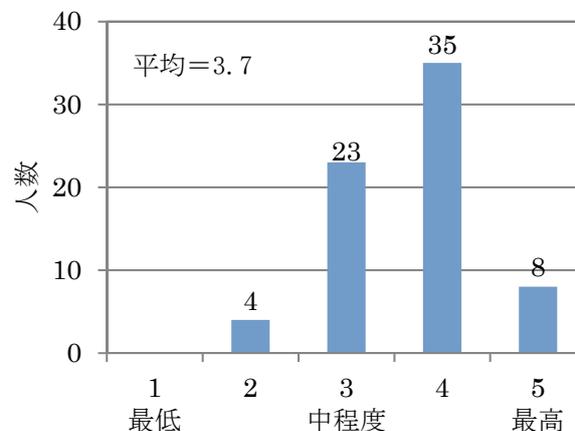
# 参加者アンケート結果

## 第1日目の評価

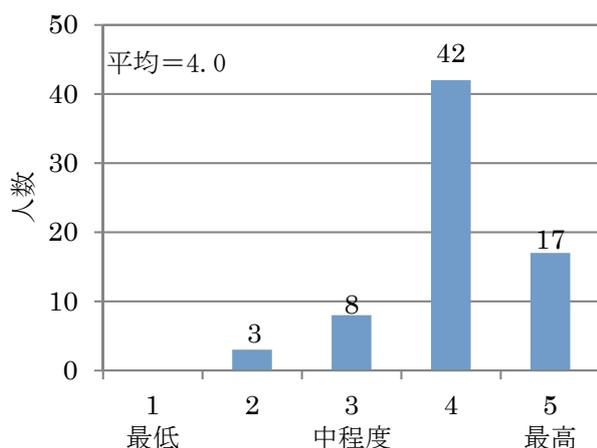
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



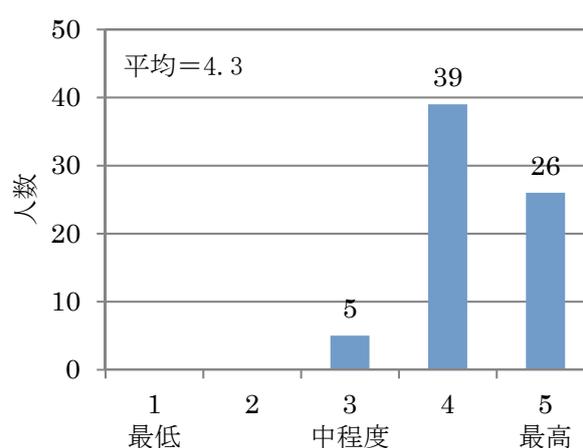
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 薬剤師に対する、様々なニーズがあること。そのニーズに答えるために、学生の中の準備や業務に従事してから、心掛けるべきことが多くあることが分かった。
- 他大学の学生が、各自抱く薬剤師像に対して、どういうことを考えているか。
- セッション I で行った KJ 法が初めてで、それについてはよく理解ができたと共に、I の内容もよく理解出来ました。
- 将来の医療を支えていく者として、薬剤師が社会に求められるために必要なことを理解することができました。
- 6年間の大学での学習を通して、自分たちができるようになったこと、今の段階で、できないこと、今後できるようにならないかならなければならないことを明確に考えることができたと思います。

- 薬剤師のニーズについて、薬の知識に注目しがちだが、根本は「考える能力」であり、専門性の意味をしっかりと見据える必要があると理解しました。
- 今、社会から薬剤師に求められていることは何かについて考え、薬学的知識専門性は、もちろん患者さんの背景まで逆上り、気持ちをくみ取った医療を提供する大切さを学べた。また、医薬品の副作用防止、多職種との連帯を通して、シームレスな医療を提供することが患者さんの治療に貢献できると理解できた。
- 薬剤師にできることを世間にアピールすべきだ。国が問題視していること、それに薬剤師が能動的にアプローチする必要があること。
- 大学によって学んできたことの質や量にばらつきがあり、だからこそ多様な視点を取り入れることができた。自分が身につけてきたことと、理解像には解離があり、現状に満足してはいけないと再確認できた。
- 多くの人の意見を聞く事で、自分の考えの幅が広がる事。薬剤師として必要とされる能力。
- 私達が薬剤師として働く際に、どのようなことが求められているのか。それを満たすためには、私たちは何をすべきなのか。
- 社会の求める薬剤師として、自分が持っていない意見等を聞き、さらにくわしく質問することができた。
- 講演での薬剤師の職能について自ら動く必要があること。
- これからの薬剤師として何が必要かどうすることで社会に求められる薬剤師になるにはどうすればいいか理解が深まった。講義のカリキュラムに思っていたより各大学で違いがあり興味深かった。
- 大学によって、講義などがかなり違うということ。実習も配属先によって内容が異なるということ。
- 討論を重ねることの重要性、また面白さを再認識した。最後の講義では、薬剤師としての求められるべき姿、根本の1つの形を話していただいだけ、非常に興味深かった。
- 実務実習の意義について。薬剤師に求められることについて。
- 様々な価値観。薬剤師としての覚悟。
- 今後、薬剤師に求められるニーズに関する話し合いの際に、他の医療従事者にはない、薬剤師ならではの知識（製剤・薬物動態など）を活かせるようにしなければならないという意見が出て、それが最後の紀平先生の話とマッチしていたので、より深く理解でき印象に残りました。
- 薬剤師の求められている仕事や、できることについて、ニーズとは何か、深く掘り下げることができました。
- 誰しもが薬剤師の未来に不安と危機感をもっており、変わっていかねばならないという意識を持っていること。こうなりたいという薬剤師像を具体的に描けている人が多い。
- 同期の薬学生がどのような事柄について、問題だと思っているのかについて共有し、理解できた。

- 社会が求められる薬剤師のニーズをグループで考え、まとめることでより理解を深めることができました。
- 薬の専門家として、薬剤師はどうあるべきか（紀平先生のご講演）。
- 社会・患者目線で薬剤師の事を考えることができた。
- 社会が求めるニーズについて、大勢で討論したところ、やはり医療費削減や地域医療の向上につながっていたため、おおもとはここにあると理解した。
- 周りの人の意見をたくさん聞く事で、自分自身の薬剤師、医療に対する視野が広がった。
- 薬剤師には様々な職種があること。
- 今日の薬剤師が社会から何を求められているか。日々考察を重ねる必要があり、時代のニーズがうつり変わることに気付く必要があると感じた事。
- 同じ薬学部の学生と言っても、通う大学や個人によってアプローチの仕方が異なっていて勉強になりました。
- 薬剤師の社会的ニーズとその改善方法。薬剤師としての覚悟再確認。薬剤師としての役割の再確認。
- 薬剤師が社会から何を望まれているのか。自分自身では考えつかない意見が多くあり、自分に吸収することができた。
- 社会に求められることとして話合うことでより自分の考えも深まった。またあいまいに分かっていたことも厚労省の先生の講演を通して考えることができた。
- これからの薬剤師に求められていること。今の社会が何を求めているのか以前より明確になった。
- 薬剤師としての社会のニーズ、他の人の考え方について。
- 薬剤師の職務・求められる技能について学ぶことができた。
- 薬剤師へのニーズは様々あり、学生の間でもそれがよく考えられ、感じとれていること
- 多くの人と話し合い、意見を出すことで、様々な考えを聞くことができ、また自分の意見を言葉にすることで、どうしたらうまくつたえることができるかということを考える機会になりました。人とコミュニケーションをとる能力をのばすことは大切であり、そのコミュニケーション能力でプロとして何が必要となってくるかを理解することができました。
- 参加学生はみんな色々な事を考えていて、就職先によって視点が異なっている。薬剤師にできること、求められていることはたくさんある。
- 薬剤師に必要な資質、それをどう生かすことができるか。
- たくさんの意見をまとめ人に正しく伝えることの難しさ。人と交流し、意見交換することの刺激と楽しさ。
- 病院・薬局に就職する薬剤師が、医療の現状をどのように、とらえているのか。国としての今後の方針。
- 薬学部を卒業するまでに身をつけておくべきこと。他大学の学生が経験してきたエピソードやそれを通して感じ考えたこと。様々なニーズに対する理想の薬剤師像について。
- 薬学部教育の研究→教科書→実務の体制。医薬品の有効性、安全性の曖昧さ。

- 薬剤師の在り方（薬局・病院薬剤師以外の薬剤師も含め）同期生（他大学の）考え方
- 薬剤師が求められているニーズなどについて議論して、予め考えていたことと全く異なる意見がでてきて、薬剤師としての仕事の向き合い方について理解が深まった。
- 他大学の学生が集まり、討論したため、社会が求めているニーズなど、また薬剤師として将来のあるべき姿に対する意見を聴きよく理解できた。
- 薬剤師として働く上で目的を患者さん目線での利益として考え直すことができた。
- 紀平先生のお話を聞いて、これからの薬剤師に必要なことについて理解できました。
- 私たちが考えている「社会が求める薬剤師のニーズ」に対して、これまで勉強していたことが、どこまで到達できているのかとういことを同期で議論しながら、振り返ることができた点がよかったし、今日の論点のつながりを理解できた場面だったように思います。
- 今まで薬剤師の役割を明確に言ってもらえたことが少なく、薬剤師に魅力を感じるものが少なかったので（在学中）紀平さんの最後の言葉は感銘をうけました。
- 他の学生皆さんが、どのようなことを考えて、薬剤師をみてきたのか（実務実習をしてきたのか）がよく理解できた。
- ある課題に取り組む際に本質を見失わないことの重要性。全国の薬学生がどの様に教育を受け、それを踏まえて薬剤師についてどう考えているのかの実際。
- 全国の学生と意見を出しあうことで、実習の経験談などから、様々な医療のシステムを知ることができた。（ex. ブラウンバック運動など）
- 薬剤師になるにあたり今後どのようなことをしていくべきか多くの意見を知ることができた。
- 社会に求められる薬剤師は時代とともに変化すること。またその素質は何かが理解できた。
- 厚労省の先生のお話。自分の中で抱いていた難問である。①生き残れる薬剤師になるためには。②6年制薬剤師が研究する意義について、考え、解決の糸口がみつかったような気がします。
- 学生同士で意見を交わすことで、薬剤師として目指している患者さんに寄り添える薬剤師になりたい。そのために今必要なこと、現状などが明確になりました。大学ごとに制度や教育内容が異なるので、シェアしていくことが大切だと感じました（社会に出て）。
- 人が大学によって実習で経験したことが授業で学んだことに大きく違いがあること。
- 他の大学生と自分の経験の違い。
- 現在のあるいは今後の薬剤師として何ができるのか。薬だけ見るのではなく患者を含めて、もっと周りの人を見るべきだと思った。
- 一人一人違う考えを持ち、それらを1つにまとめることで、これまで違う大学で学んできた者同士が薬剤師を目標として向かっていることがよくわかった。
- 薬剤師が社会に求められていることは、はっきりわからない。だからこそ「見える化」が大事であり、議論や地域の中で、それを探し応えていく必要がある。

- SGD など大学内で行う際にも考え方の違い、多様化は感じますが、学んできた環境も異なる他大学の方の意見はとても印象的でした。
- なぜ？ どうして？を追求することの重要性。〇〇な薬剤師、〇〇ができる、など結果論だけで終わるのではなく、そこに至る経緯まで詰めることが大切である。
- 他大学での学習形態や特化した部分を理解しました。
- 薬剤師として必要な事・考えとそれを満たすために行うべきこと。
- 薬剤師に対する社会のニーズが多く、学生の意見をきくことでとても参考になった。
- 色々な考えの人がいて、色々な価値観があること。薬剤師として働き始める前に、まず社会のニーズを知ることが大切であること。
- 薬剤師の職能、ニーズ。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- 6年制学生の「できなかった」「やりたかった」の意見もあった方が、議論しやすかった。
- セッションⅡの「6年間でできるようになったこと」という項目が現時点ではあまりたくさんなく、理解できなかったというよりは難しかったです。
- 社会のニーズに合った薬剤師として今現在自分ができるようになったことが少なかったため改めて考えていく必要がある。
- 自分自身で薬剤師にできる仕事の幅について、改めて考え直す必要があると思いました。それを他の職種にも理解してもらうことで、薬剤師の職域が広がっていくことを話し合い、講演を通して感じました。
- SGDでのまとめ方がどこまで書くべきか難しかったです。
- 県、地域ならではの取組みについて、知らないことが多かったので、もう一度自分で調べたい。
- 本当に今まで自分が学んできたことが患者さんのために活かせるのか。
- 薬学部が6年制となった意義など。
- 他の学生の専門的な話がわからなかったことがあったが、興味を持ったので、あとで話を聞くか調べるかします。
- テーマが広くて何を話し合うべきか、意図をくみとれていないところがあった。しかし、それは討論の最初だけで、タスクフォースの方のリードによって正しく話を進めていくことができた。
- 6年間って長いなあと。
- 4年制から6年制にかわったことにより、私達が得たものは実務実習の面しか出て来なかった。(4年制の人の話をあまり知らないので比較しづらかった)
- 薬剤師としての職務の本質的な部分についての問題提起を受け、理解が不十分であったことを痛感した。
- 4年制と6年制で大きく変化したことは何か(実務実習、研究以外で)が理解できませんでした。

- 社会が薬剤師に対して求められているニーズ、いくつか意見があがっていたが、本当にそれが求められているものなのか疑問に思うことがあった。
- 現場の薬剤師の考えをもっと知れたらと思いました。
- 薬学では、覚悟や意思についてあまり考えることが少ないのではと感じた。
- 他の医療者あるいは患者からどのようなことを求められているかについて。
- 厚労省等の事務職で働く薬剤師が、どの様な業務を行っているのかを具体的に知りたかった。
- より多くの意見を聞いて有意義だった。
- 自分が知っていた業界以外のことについては、深く知らないのであまり深く話すことができませんでした。
- 今後の薬剤師の姿について。多様な意思から明確なビジョンは見えてこなかった。
- 発表・質疑応答の時間が短く、伝えたいことが伝わらない／伝わってこないことがあった。
- 聞いたことのない言葉が多々あったので、知識不足、情報収集能力というものが自分にはまだまだ足りないと思った。
- 現在、学生や医療貢献の観点で、どの程度の学ぶことができているか、客観視がなかなかできなかつた。
- 寿命というものが存在する中で、どこまで治療すべきなのか（100歳の癌を高額薬品で治療することと、10歳でなくなってしまう難病の研究はどちらが大切なのか。今までは問題なかったが、寿命がのび、医療費が増大している現在では考える必要があると考えられる。
- 最後の講演の中にあつた、医薬品の品質について解釈が多様に見えると思うため、薬剤師として注意すべき部分についてお話をうかがいたかつたです。
- 地域医療・地域包括ケア→まだまだ漠然としていると感じた。
- 社会保障制度など医療制度面に関して。
- KJ法の島の名前を具体的に決めることがむずかしかつた。
- 社会保険制度など今後の傾向について。
- どんな薬剤師になりたいか、そのためには何をしたらよいかを討議したが、どうしても話が抽象的になってしまい具体的ではない言葉になってしまった。
- 「社会が求める」という点の認識が難しかつたです。「医療現場で」や「地域で」でのニーズなら理解は容易でしたが、社会と大きく漠然だつたので、TVや新聞で報道されているようなことなのかなと考えるてしまいました。
- 実務実習時の個人の達成感が異なっており、統一がされていないと感じた。
- 残りの学生生活で自分に何ができるのか、どういうことをしていけば求められる薬剤師に近づけるか（学生として）。
- 社会からの薬剤師に対するニーズ。社会が薬剤師についてあまり知らないなので、そもそもニーズがないのかも知れませんが、答えのないことかもしれませんが、実際のところどうなのかなよく理解できませんでした。

- KJ法の島の分け方が難しかった。
- KJ法に少し戸惑ってしまった。
- 薬剤師として臨床では薬局と病院に大別される。求められていることは一緒なのかという事。
- 薬剤師に求められていること。考えれば考える程、あれは？これは？と意見が出ることで、うまくまとめられず。理解しがちではなく、考えること、まとめることの難しさを感じた。
- 理想と現実の中で、実現不可能なこと難しいこと（現場から見て）が分からなかった。
- 地域で薬剤師がどういったことができるのか、もっと具体的な案や既に行われていることを知りたい。
- 社会が本当の薬剤師に求められているのは何なのか。
- 地域のために、薬剤師がどうすべきか。

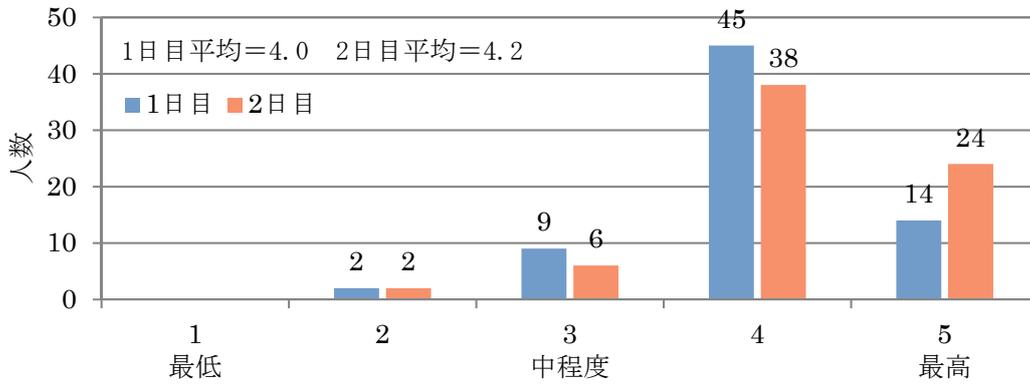
#### 7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- 他の地域における医療や薬剤師の状況の意見交換を通して、学ぶことが出来た。
- 昼ごはんのおかわりがしたかったです。
- セッション全体を通して、とても有意義で刺激のある時間を過ごさせてもらっています。
- 様々な人の意見を聴き、ディスカッションできたので、非常に楽しく有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。
- 厚生労働省の先生に近未来を担う薬剤師について考える機会を頂けた。
- 問題を解決するには、ディスカッションは欠かせないと思います。それを再確認することができました。楽しかったです。
- もっと積極的に参加できるよう頑張りたい。
- 求められる薬剤師像について、実際に一般の人の思いを聞いてみたいと思いました。
- テーマについて話し合う時間はあっという間だった。短いと感じたが、それだけ密に話し合うことができたということだと感じる。
- 他人のみなさんの意見がとても新鮮で刺激になりました。楽しく充実した時間でした。ありがとうございました。
- とてもあっという間の時間で楽しかったです。
- 参加者が総じて積極的でスムーズに流れに入れた事が良かったと思う。
- 有意義な時間を過ごすことができました。
- 普段あまりしない話なのでとても興味深い。
- 他大学との考え方の多様性を感じることが出来た良い機会になりました。
- 周囲が大学を代表していることもあり、頭をフル回転させたこともあり、多少混乱しました。
- 様々な大学の方と交流ができて自分の知識を深めることができとても楽しい一日でした。
- 他学校の学生と交流ができて、とてもよい刺激になった。

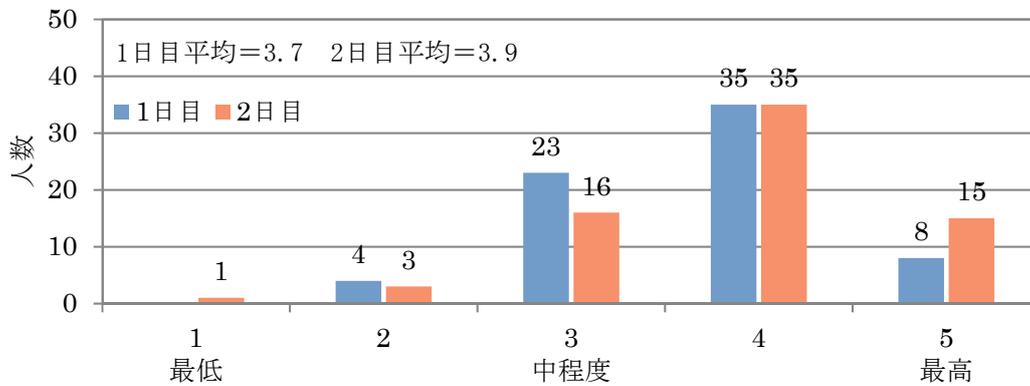
- 他大学の人と話合うことで、今まで自分が出会ったことのない意見や、実習での現場の様子を知ることができて、とても楽しい。社会に出てもいろいろなことに参加して新しいことに目を向けようと思った。
- 全国の薬局や病院の内情が知ることができよかった。
- 討論の流れ（ニーズ→現状、将来性）がとても深く考えることが出来良かったです。ありがとうございました。
- 各セッションに関連性があり、1つの議題を深くほり下げる体験ができて楽しかった。各学生さんが、薬剤師としてどうあるべきかととても熱心に語っていて、とても良い刺激を受けた。
- 自分の中で完結していた薬剤師に求められるものが広がった気がした。
- 短いスパンでたくさんの討論、発表ができるのが非常に刺激的で楽しかったです。
- プライバシーの問題はありますが、趣味や研究、実習での経験など、あらかじめアンケートにしておくスムーズにワークに入れると思います。
- タスクフォースの方に議論をまとめるヒントを多くいただきましたすかりました。
- 視野が狭い（ex. 他職種（医師・看）以外にも製薬メーカー、他業界）グローバルな視点がないのは残念に感じた。
- 第二部のセッションⅠのSGDの時間がもう少し欲しかったです（能力不足だったのかもしれませんが）。
- いろいろな方から意見を聞くことができて、勉強になりましたが、すごく楽しかったです。
- 同期とたくさんお話ができてよかったです。
- 2-3年次くらいでも同じようなWSがあると面白そうです（あるのですかね？）  
また、必ず学内で公募する方がいいように思いました（この存在を知らない人が多いと思う）関西、関東わけてもいいので参加人数少しふやして。
- SGDの時間が短く感じた。短い時間でまとめることも大切だと思うが話したりない。議論が足りないような感じもあった。
- 色々な学生と話すことで、沢山の刺激を受けました。良い日でした。
- いつもと違う大学のメンバーと話すことで考えを深めるいい機会になった。
- “信頼される医療従事者とは”という課題について考えてみたいと思います。
- 頭の中で浮かんだことをうまく言葉にできず、伝えることの難しさを改めて感じました。  
しかしそれをまとめてくれるチーム力に助けて頂きました。
- 全国の学生のみなさんと話すことができと楽しかった。意見がたくさん出ておもしろいと感じた。
- 薬剤師として医療に関われることを大切にしていきたいと感じました。
- あっという間に終わりました。
- 他チームやⅠやⅡの話も少しは聞けると良いと思いました。
- SGDでは、タスクフォースの方に助けられました。

## 第2日目の評価

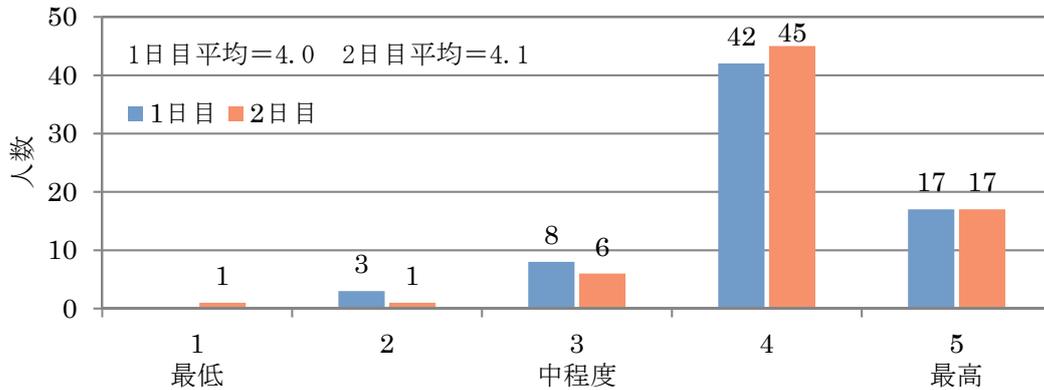
### 1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



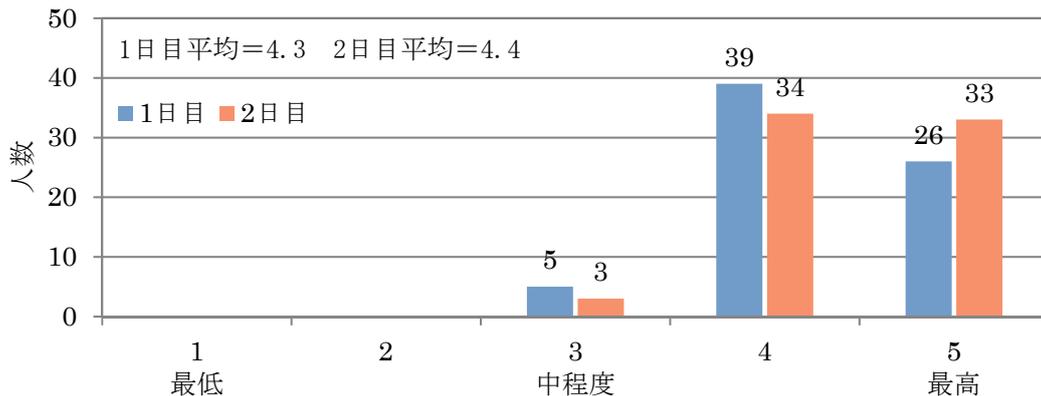
### 2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



### 3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



### 4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 薬剤師に求められていること。今後自分が何をすべきか。
- 生涯研鑽とはどういうことなのか。どうしたらモチベーションを保ちながら自己研鑽し続けられるか。後続を育てていくことも自分たちの役割であり、人を育てることで自分も育つことができるということ。
- 生涯研鑽の必要性。情報共有の大切さ。
- 今後の自分が薬剤師になったとき、能動的な姿勢が必要であること。
- 今後の自分たちに何ができるのかということ。
- たくさんの意見が刺激となり、将来、薬剤師として学び続けなければいけないと改めて実感しました。
- 他大学と授業などで違いがあることを知ることができました。
- 同じ薬学部でも考え方や経験が大きく異なること。今後協力が求められる他の職種のことを全然知らない。知っていかなければならないということ。
- 今後、自分自身として薬剤師として、将来取り組んでいかなければならないこと。目指すべき姿。
- 今後、地域に必要な事（薬剤師だけではなく、広範囲の職種がすべきこと）を班で話し合いより理解できた。
- 生涯研鑽の必要性を感じました。
- 生涯学び続ける態度は必要。
- 学会参加の重要性。自ら情報を発信することの大切さ。
- 病気のケアだけではなく、未病段階でのケアについて、今日はよく討論することができ、その重要性を再認識した。
- 他の参加者の臨床薬剤師になるための意欲。
- 将来の夢は就職活動の時に考えていたけど、社会のニーズとの関係性について、真剣に考えた事はなく、良い経験になった。多様な意見、考えを知れた。
- 薬剤師になった後に、具体的に何をやって研鑽していけばよいか分かった。（地域で顔を出す、学会への参加、知識・情報共有。自分の意見を発表するなど）
- 自己研鑽の重要性について理解できました。社会のニーズに答える薬剤師として、これからどういうことをしていくのか意見を出し合い、学ぶことができました。
- 将来薬剤師として働くために、どのようなことを行なえば良いか、また学んでいくかを短い時間でしたが学ぶことができました。
- 未来に向かって何をするのか、制度の点から考えることでより、具体的な討論となり、より深く理解できました。
- 患者さんの健康維持・増進に貢献していくためにも、社会に求められることを考えながら、常に自己研鑽に励んでいくことが大切だと改めて感じました。
- 具体的にどのような行動をうつして行くことが出来るのかということを考えることができました。
- 今後、自分達に求められていることをたくさん話し合えて勉強になりました。

- 薬剤師はどんな事が出来るのかということ、患者さんや世間の人にはもちろん、他の職種の方にも知ってもらう必要があることが理解できた。
- 勉強する内容は日々の生活の中にもあるということ（平井先生のご講演）。
- 現在の薬学教育の問題点またそれに必要な思考であったりツールを再確認することができた。
- 多職種間のコミュニケーション向上が医療の質の向上につながるということがわかった。
- デザイン面や設計など、薬局を患者さんのすごしやすい環境にする方法をいろんな視点から知ることができた。
- 研究の志について。自身が大学院に行くこともあり安心しました。
- 6年制教育で学んでおきたかった事、実習時に学んでおきたかったことには大変共感できた。
- 将来に向かって行すべきビジョン、生涯研鑽について。
- 実習を通して感じていたものが人それぞれだった。感じたものは人それぞれだったが、行き着く先は同じなのだと感じた。
- 各大学での（実習先）での学んだことの違い。他の人が薬剤師として在宅にどう思っているか。
- 理想的な薬剤師を目指すにあたり、自分たちでできる行動だけではなく、具体的な必要な制度、しくみまで考えられ、学生によるグループ討議に大きな意義を感じた。
- 薬剤師に常に向上心を持ち続ける必要があり、それは必ずしも「成長」につながるとは限らないことを知りました。結果につながらなくとも、意思をもち続けることが重要であると理解しました。
- 具体的にスキルアップをするためには、どのような手段が必要か分かり、また問題点も見えてきた。
- 薬剤師の生涯研鑽の重要性について。
- 将来薬剤師として今からすべきこと。
- 薬剤師には経験はもちろん、日々自分には何が出来るかということを考えて、行動することが大事であるということ。
- 「今後の薬剤師人生においてどのように学んでいくのか」ということを考える重要性。
- 薬剤師として働くときの意志の重要性。
- 将来薬剤師を育てるために必要なシステム。不必要なシステム。
- 知識や経験はもちろんのこと、自分から積極的に他の職種とコミュニケーションをとることが大切だということがわかった。
- 地域包括ケアシステムを実習中に感じる事があまりなかったで、そのエピソードを聞くことができよかったです。病院薬剤師になりますが、その立場から連携を意識してできるところからかかわっていきたいと思いました。
- 同じような考え方をもちた人が多い。
- 薬剤師は患者を含め、全ての人の健康の維持・増進を担っているの、一生かけて勉強し続けなければならないということが理解できました。

- 生涯研鑽という言葉はよく聞くが、実際に自分が就職後に何をしていけばいいのかビジョンがあやふやだったことがわかった。
- 生涯研鑽では何？と疑問を持ち続けること。教育することが重要であること。
- 現場に短期出ただけでは、自分に何ができるか、必要か、どうしたいか、明確にならない人が多いということを知った。(方向性やどこに関わりたいかは決めるきっかけにできるが)
- 知識が不足しているということ。他の医療職に関わる知人/友人の必要性。ワークショップの意義と実施ハードルの高さ。
- 理想の薬剤師と現状の私たちとの間のギャップ。
- 将来。薬剤師として必要なことがよく分かった。ワークショップに参加している人は、おおむね同じ方向を向いていることが分かった。
- 各大学での学習の方法により、今後の薬剤師像などについて考えが異なっていること。
- 自分から能動的に動くこと、自分がしたいことができないことを知った時、すぐあきらめるのではなく、へこたれないことの大切さを改めて感じました。
- どこまでが自分たちにできて、どこからが今のままではできないのかを明確にすることができた。
- 薬剤師という職業をもっと広めなくてはならないという事。
- 自分が今後求められている薬剤師に近づくためにすべき行動について理解することができた。
- それぞれ生徒が6年間で様々なことを体験し、感じていることを知れました。
- 生涯学習のために薬剤師として何をすべきなのか、自分から学びに行く意識を持つことが重要だと感じた。
- やろうと思って自分で行動、働きかけをすれば何でもできること。
- 1日目より討議に参加できた。
- 生涯研鑽の重要性。
- 町の化学者として、薬剤師として、研究にずっと携わることの大切さ。学会や論文を利用して知識をインプットし、さらに外へアウトプットする重要性。
- 実際に思いえがく薬剤師、理想とする薬剤師と今の自分、これからの自分に必要なことを知ることができました。
- 生涯研鑽のために必要な姿勢、自分から情報を収集することの大切さ。
- 薬剤師が自己研鑽し続けていくことの重要性。その方法を探し、実践していくことの重要性。
- 他大学の学生が、普段何を考え、モチベーションを維持し夢に向かっているか。
- 生涯研鑽の重要性を再確認できた。
- 薬剤師が地域に根ざした医療を目指すために足りないことなどを具体的に討論できて、明確にできたので良かったです。特に、健康に関心のない人に対する医療の提供はとても難しいということを実感できました。

●薬剤師の将来について求められていることを分析し、その具体的な道筋について話し合い理解できた。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

●薬剤師免許と併用して他の免許取得する意義。

●個人レベルで今からできることと“薬剤師として社会でできることの両方の視点で考えることができていなかった。片方の視点に偏った意見になってしまった。

●健康に興味がない人への対応・指導。

●カタカナの言葉は、言葉だけつっぱしっていて、それぞれで定義がちがうような印象を受けました。(シームレス、地域包括ケアシステム)

地域包括ケアの話で、色々なとりくみのお話を聞くことができたから、自分があと半年後、薬剤師になったときにできることはなんだろうと考えたときに、具体的に思いつくことができなかった。

●地域包括ケアの中身が言葉にすると中々むずかしい。

●もっと皆の体験談をききたかった。

●「未来に向かって何をするか」という題材でしたが、3P内でも現在から未来について考えているグループと、今後の未来はこうあるべきであると考えているグループに分かれていたように感じがしました。

●他大学の実習内容が、私の大学よりも高い気がした。

●薬剤師として何ができるのか。というテーマを具体的に挙げようとする、なかなか難しかった。

●薬学部がたくさんできたことで、薬学生がふえ、ニーズが多様化し、それを実現するためにたくさん工夫はされていると感じたけれど、このような所に来ないと分からないので、在学中の学生にどのように知ってもらっているのか。

●一般的な社会の取り組みについてまだまだ知らないことが多かったです。

●本日のSGDに関して話し合った内容が多すぎてプロダクトにまとまりがあったのか少し心配しております。

●在宅の話が多く挙がりましたが、実質どのくらい進んでいるのかを知りたいと思いました。実習先によっては在宅を経験してないので、進んでいる地域と進んでいない地域との問題点など考える必要があると思いました。

●これから、私たちが、社会のために「具体的に」できること、自分自身でももう一度考え直したいと思いました。

●質問をすることができなかった。

●一般の方への説明会をどのような形で行うのが良いのかをはっきりできなかった。

●理解できなかったことは特になし。あまりよく出来なかったことは、未来に向けて何をするのかの発表において具体的な施策のおとしこみ。

●災害での薬剤師としての働き方を今から、どのように学べばいいのか。

- いろいろと改善すべき制度について話し合ったが、実際にその制度を導入するにはどうすればいいのかわからなかった。
- 学会に所属する意義をこれまで体感したことがないので実感は沸かなかったが、前向きに検討しようと思った。
- 専門用語。
- 全ての薬剤師に責任感や能動的行動をする必要性を意識づけることの難しさを感じた。  
(はじめから強い意志があるならよいが、それを持たない人に意識づける方法は未だわからなかった)
- 自分が目指す薬剤師になるために、4月から具体的に何を学んでいくべきであるかについて、明確な答えが見つけれず、働く中でわかっていくことかと思いました。
- 自分自身の学会の選択。
- 地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割をもっと詳しく学びたかった。
- IPW/IPEは、初めてきたので調べたいと思いました。
- 自分が何をすればいいのかわからず、どのように自分みがきをするのかわからず、もう少し整理に時間がかかりそうです。
- 周囲の薬剤師の意識を高めるための具体的手段。
- 人の意識を変える方法。
- 地域包括ケアシステムについて、まだまだ自分の理解が足りないと思った。
- 学会に参加すること、制度を変えることを提案しただけで満足している点。逆になぜ今の薬剤師がそれらのことをできていないのかわからず、まだ落としこむことまで考えてほしかった。  
意識がないと動かない。大事なことは自分だったら行くのかわからず？意識をどう変えるか議論してみたかった。
- 理想像とのギャップを埋めるために、どう対応どう行動すればよいかを想像できなかった。こうなりたい、こうしたいという意志・意欲を具体的な行動レベルに落とし込む能力が、まだ自分には足りなかったように思います。
- 社会に薬剤師が信頼されるためには、薬剤師全体のスキルの底上げが必要だと感じたのだが、やる気のない薬剤師の人にも研鑽をしてもらうためにはどうしたらよいか。
- 生涯研鑽していくためのモチベーションを維持すること。
- 薬剤師としてあたり前に出来るべき仕事とこれからやっていくべき学習内容の差。
- 薬剤師の差別化と底上げどこに重点をおくのか。
- 必要な制度やサポートまで考えるのは難しかった。
- どんな制度があれば、国民が求めている医療に更に近づけるか。
- 薬剤師が社会から求められていることについて、もっと考えていかないといけないと感じた。
- アウトプットの難しさ。
- 薬薬連帯がうまくいっていない理由。患者中心に据えていたら実現しそうなのにと感じた。

- 将来、必要なことは分かっても、どのようにすればその方向に向かえるのかまで考えることが難しかった。
- 討論が短く、的を得た回答が得られなかった。
- 将来薬剤師に何ができるのかというテーマに対して、社会のニーズ、医療関係者からのニーズなど視野を広くもって考えることが少し難しかった。

#### 7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

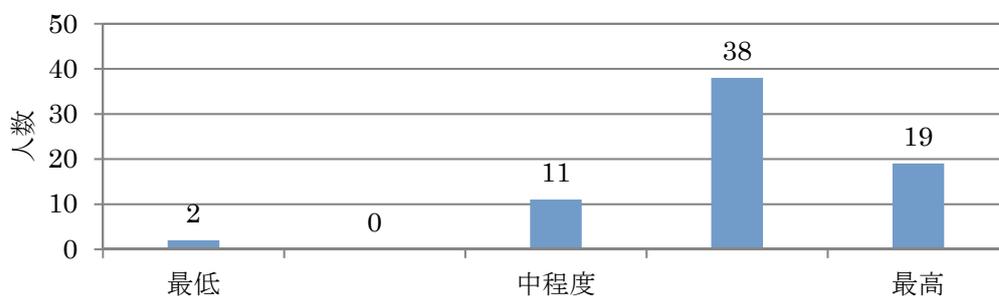
- うちの大学「OTC 治療学」って授業がありますよ（4年後期にやります）。
- 今まだ薬剤師になれていない私達にとっての“やるべきこと、今できること”と今後薬剤師のあるべき姿をみすえた“未来に向けて行うこと”は上手くリンクしていてディスカッションできなかったなと思いました。テーマも細かく話し合えてよかったです。
- 薬学教育には受ける側と授ける側が双方に無理なく行うシステムでないと持続は難しいと思う。フィジカルアセスメントも熟練は研修でOKだが、知識や応用は大学で試験等をうけさせ記憶される必要はあると思う。私はそうしたかったです。
- 昨日に引き続き、様々な考えを持ったグループの人と、意見をまとめることができ、良かった。
- 昨日以上に、薬剤師の在り方、役割について、突っ込んだ議論ができたと思います。
- 他大学の学生の様々な意見を聞き、より知識を深めることができました。
- もう少しSGDの時間があると良かったと感じました。
- 考えたことを発言する力が求められていると再確認しました。
- 最後の討論ということもあり、自分の思いを他の人達と話し合えてよかったです。
- 他大学との意見交換は持っている知識、言葉などが違いすごくいい刺激になりました。
- 個人の研究の質をいかに担保していくか、もっとくわしく聞きたかった。
- 大変有意義な2日間でした。
- 1日目の内容に基づいた、2日目のプログラムをSGDで行えたことが、とても自分の価値観に印象づけることができました。ありがとうございました。
- 全員が積極的にグループディスカッションに参加することは、なかなか無い機会だと思った。とても充実した2日間でした。
- 1日目の夜にとっても仲良くなれて話し合いがとてもスムーズにみんな意見を出しあてできた。
- 大学ごと、学んだことの違いがわかってよかった。最終討議では、学生が働きかけたことで薬局が変わった事例も伺い感動した。
- 他学部と交流をしたこともなく、またしている大学もあるということも知らなかったのので、周りの意見や話を聞くことは、本当に視野を広げる手段として重要だと気づきました。
- お盆期間という配慮で早めの解散となってしまいましたが、もう少し討議の時間をいただけると幸いです。
- 時間内に満足いくほど、話し合えなかったことがくやしいです。

- 企業やベンチャー製薬の議論を経験している立場として、薬剤師間の議論はただの理想のぶつけ合いだと感じた。本質的な問題は解決できず、今後の薬剤師の立場は変わらないと思う。
- 最後の討論のテーマが今までとつながっていたけど、薬局に限定されている部分が少しあって、もう少し広い範囲でもいいのにと感じました。
- 私たちにはできることがたくさんあると思いました。けど、それはとても大変なことです。今日の講演を聞いて、すごく明るくいきいきしていらっしやるのがすごく印象的でした。その心がすごく大切なのかなと思いました。
- 全体の討論で他のグループの人の意見もきけてよかったです。熊本大学の現地の話もきけてよかったです。
- SGDの時間を明確にしてほしかった。○分討論、○分まとめなど。
- 討論の時間が短かったです。
- 1日目に比べ、濃い内容の話しあいがあったと思いました。
- 常に興味・好奇心を持ち続けたいと思った。
- 昨日の反省も受け、より良い討論ができたように感じました。
- 来年から、在宅医療を専門に行う薬局に就職するので、学会の話や認定薬剤師の話を書くことができ、とてもモチベーションが上がりました。
- 研究者として働くので、A11 薬剤師として、今回のように未来をひっぱる薬剤師の方と話せて刺激的であった。
- チーム医療の理解が浅い人が多いこと（班の人の言うチーム医療はただのグループであった）→チーム医療のもっと真の意味を知る授業（もしくは実習）にしなければいけない。

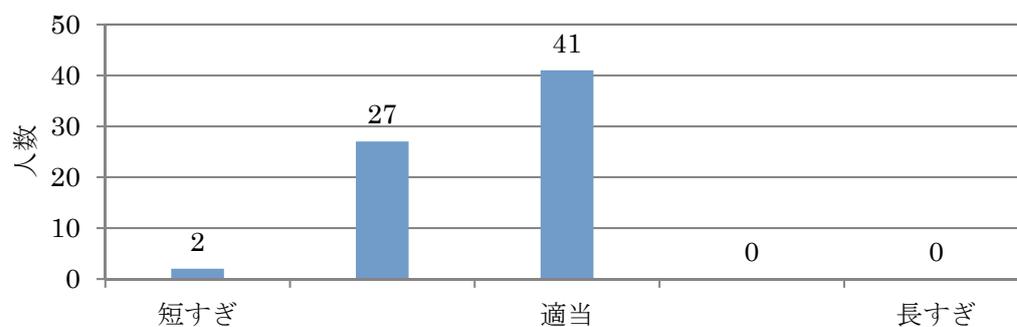
## ワークショップの総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価してください。

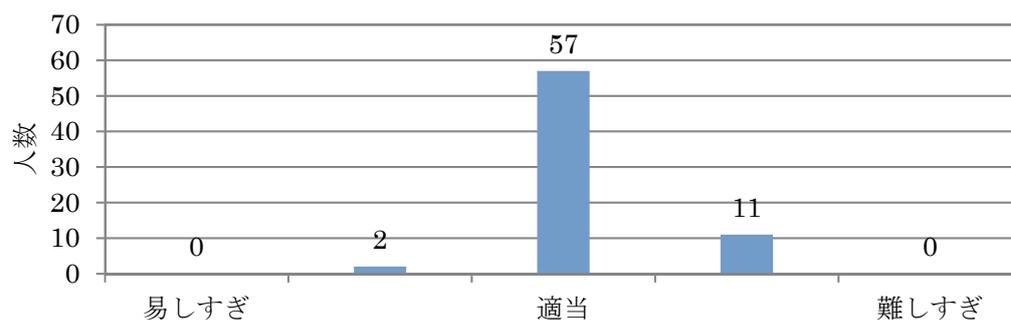
1) 内容の価値について



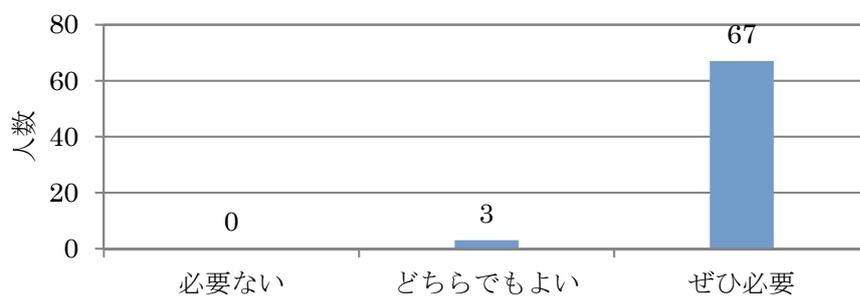
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- 他大学の方々と色々と話す機会をもうけて頂き、良い意味で自身の意識改全をすることが出来たのではないかと思います。
- 自分にはない視点、忘れかけていた視点に気がつくことができた。
- 他大学の人の意見を聞く事で、物事に対する考えの幅が広がった。初対面の人と話すことで、自分のコミュニケーション能力に足りない部分がある事に気がつくことができた。
- 様々な人と意見をかわし、自分にはない視点を得ることができた。
- 他大学の様子や全国各地の実習・講義の実態を知れた。同級生の考えていることを知れた。
- 見ず知らずの人と意見を交えることで新たな気付きにつながったところと、大学ごとに教えられていることが異なっていてとても興味深いと思いました。
- 他の大学の学生と就職を目前にして関わることができた。本音を話すことができた。
- 他の薬学生の考えや経験を知ることができた。日頃思っていたことを討論することができた。
- みなさんととても意識の高い方ばかりだったので刺激になりました。進学予定の方や、ドクター持ちの薬剤師の卒業生の方とも情報交換ができてとても有意義でした。
- 夢を語り合える仲間に会えた。
- 色々な大学の人と関わることができ、全国規模につながりを持つことができた。また、1つの問題に対して、様々な価値観をぶつけることで、考えた以上に発展した考えを持つことができた。
- 会場にいる学生全員大学が違い、本当に色々な話を聞くことができた。(実習内容や大学の教育体制など) グループでの討論は非常に興味深く、相手の話が刺激になるだけでなく、自分がアウトプットすることも非常に楽しかった。(自分の意見や意識の再確認にもつながる)
- 「ニーズについて」、ここまで深く話し合ったことは初めてでした。今求められているニーズをうめるだけではいつまでも薬剤師の可能性は広がらないと、皆で「ニーズの提供」についてあつく語れた事がとても良き思い出です。厚労省の方の講演がとても心に残っております。薬剤師の仕事って何だろう？もう一度考える機会になりました。
- 将来の薬剤師について学んだ際、薬局目線での討議が中心となっているグループが多かったので、今後薬剤師が医療業界、薬剤師業界、社会全体に貢献できる可能性が大きいことを感じる事ができた。
- 全国の同学年の方と様々な情報交換ができたことが自身の学習のモチベーション向上につながりました。
- 全国の薬学生と関わる事ができたこと。
- いつもは学校内の同じメンバー間での情報共有だったが、このワークショップで全国の薬学生と学校のこと地域医療のこと薬剤師の在り方などの意見交換を行うことができ、自分の価値観が大幅に広がった。

- 他大学の学生とたくさん話す機会があり、様々なことを教わり、刺激を受けました。これから必要とされる薬剤師はどのような存在かもう一度考え直すことができました。
- 他の大学の学生と交流でき、自分が知らないことをたくさん教えていただいたこと。
- 今まで関わることのなかった他大学の人と知り合いになれ、同じ志を持っていることがとてもうれしく思いました。自分の考えや他の考えをみんなで考えられ、より良いものになったSGDはとても意義のあるものになったと思います。
- グループワークを通して、他大学の学生さんたちがどのように考えているのかを知ることができた。グループワークを通して、私自身も答えが見つからないテーマについて、色々な人の考えを聞くことができた。(自分と同じ考えも、異なる考えも知ることができた)
- 他大学の方と関わりが持てたこと。
- みんなが積極的に参加しているので話が充実していた。
- 平井みどり先生の講演で2日分のワークショップが一貫して理解できた。
- 全国のいろんな大学の教育方針や実習内容を知ることができた。
- 個々の意見をディスカッションすることができたのでとても勉強になりました。考え方やプレゼン能力も今回のワークショップを行うことでさらに養えることができた。
- 他大学で、今まで取り込んで来たことに差があり、学ぶことができました。
- 各学校の代表があつまったということもあり、積極的にレベルの高い内容がとびかう話し合いができて良かったです。また学校による違いも見直せて良かったです。
- 全員に役がまわってくるので各個人が責任を持って討論が行えたこと。
- 全国の学生と意見を交換することができ、新たな発見をすることができた。また、地域の違いによる事を知れてよかった。
- 全国の学生の声が聞いてよかった。皆多様な意見をもっており、とても参考になった。
- 様々なバックグラウンド（学生も教員も含めて）をもつ人と交流ができ、薬剤師の現状や先進的な意見を知ることができた。
- 様々なバックグラウンドを持ち、様々な方向に将来むかっていく同期との交流ができたこと。
- 他大学の学生の貴重な意見を聞くことができたのでそれがよかった。
- 他大学の方との交流、意見交換が、自分の将来のモチベーションに強く関わったこと。
- 色々な人の考えを知ることができた。全員が積極的に取り組んでいて、充実した2日間を送れた。
- 自分が習ってきたこと、感じていたことを違う意見がたくさん聞けた。全国の同期と話ができ薬剤師としてどうなりたいのか意識が高まった。
- 大学ごとのちがいが。また、個人でそれぞれ体験したことを共有し、それを含めて議論できたことが面白かった。また互いに意見を尊重する雰囲気嬉しかった。
- 何も課題がないと自ら他人（初対面の人）と話すことは少し苦手ですが、何かについてみんなで考えましようと言われると話さざるを得ず、自動的にコミュニケーションを取ることが出来るため、課題を与えグループワークすることは非常に良いと思いました。

- 他大学生、教員、ゲストとの交流。
- 他大学の人との会話で、物事の視点の多さに気付くことができた。友達ができた。自身の思考力の弱さを実感した。
- 第一部～四部を通して段階的に医療や社会への貢献、自分たちの未来に関して他大学でかつ他職種に進む学生と意見交換をできたことは今後貴重な財産です。
- 雰囲気柔らかく、意見交換が活発であった。距離感が近かった。
- 人と交流し自分の意見を相手に伝えることの難しさ、人の意見を聞き自分の意見と比較することの楽しさを学べた。たくさんの発表ができ、発表能力の向上がはかれたこと。
- 今まで他大学の薬学生と交流する機会がほとんどなく、さまざまな意見があったり、自分の大学とはちがうことを学んでいたりと、発見が多く、有意義な時間となった。
- 他大学の方の様々な体験談や先生方、先輩方の貴重なお話を伺えたこと。視野が広がり、成長できたと思います。
- 他大と意見交換でき、各大学の制度に違いがありおもしろかった。
- 同期の仲間たちと「ALL 薬剤師」という、一つのチームとして2日間過ごせたこと、互いの今まで受けてきた教育の相違、意識の相違に触れ、自身の視野が広がったことがよかったです。
- 全国の同級生の薬学生と意見を交わしあうことができ、非常に貴重な経験になった。
- みんなで積極的に意見を出しあえたこと。今後必要であることや目標をこの時期に学ぶことができたこと。
- 多くの人の意見を聞き、全国の学生と知りあえたこと。人によってまとめ方が異なり、色んなまとめ方、進め方を見れたこと。
- 他大学の薬学教育と学生が教育内容に対してどう考えているのか、そして薬学部・学生共通の苦労が実状何なのかを知ることができたこと。
- 他大学の薬学生と関わる事はめったに無いのでとても良い経験できました。大学によって少しずつカリキュラムがちがうということも時間をかけてじっくり知ることができました。
- 他の大学でどのような教育がされているのか、実習先でどんなことがあったのかなど、たくさんの意見や経験が聞けたことがとても良かったと思う。
- 多大学の周期が、どのような考えをもっているかについて知ることが出来、これからのモチベーションの向上につながった。
- 他大学の人と交流をもつ機会が今まであまり持てなかったので、交流ができてよかった。
- 大学によって、授業等の内容は多少違えど、目指す事は「みんなの健康を守ること」であり、その意識がみんなの中にあると知れたこと。
- 今の医療現場の現状と今後の社会のニーズに対して、今の時点で何ができるのか、将来何をしていくべきなのかを考える機会を与えていただいたことが良かったです。
- 他大学と関わりが持てたこと。

- 自分たちが今度なるのであろう薬剤師の未来・可能性を広げていくために、具体的に今できること、やるべきこと段階をおって話し合い意見をだしあうことで、新しい価値観・考えを互いに共有できたのがよかったですと感じました。
- 他大学の同期生との交流・連携は自分のモチベーションになった。色々な価値観を知ることのできる広い視野に身に付いた。
- 全国の学生と関わること、いろいろな話を聞け「こういう風な考えをしているのか」と感じ刺激をうけた。
- やはり全国の薬学生と交流することができる点がよかったですと思います。
- 様々な背景をもった人々と話せること。
- 他人の考えを聞いて良かった。また人と違うことは悪いことではないと感じた。
- 地域も超えてたくさんの方の大学の人と関わることで、経験談や考え方など幅広い話ができること。枠にとらわれない自由さがとても良かったです。
- 他大学の学生の考え方にふれることができた。
- 今まで、他大学の人と交流がほぼなかったもので、70 大学の人が一同に会にすることがすごく良かったです。他の大学の様々な意見を聴くことが出来、すごく良い機会でした。

### 3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

- 目立つ人話したい人の意見が目立ちやすくなる傾向があった。
- 初日の就寝時間が遅い。
- 各大学が最も力を入れて学んでいることを事前に知れたら、よりスムーズに議論が進んだと感じます。
- 仕方ないとは思いますが、交流できるのが、1 班 3 グループ約 25 名ほどで、その他 2/3 の方とはあまり接点がなかったこと。
- 70 人全員と話をするのは時間の関係上難しいかもしれないけれど、別のチームとの交流がもっとあればいいなと思いました。(せっかく、集まったのに、顔だけで別れてしまうのはもったいないなど)
- 他のグループの話しも聞きたかったです。
- 強いて言えばですが、フリー情報交換会の時間がもっと長ければ幸せでした。
- 私は I グループだったので、I グループの人とはとても仲良くなれたのですが、II、III グループの人はほとんど話す機会がなかったので、そのような方とも討論がしてみたいと感じました。
- この会について、一部の学生にしか知らせられない点。
- あまり他のグループ (I、III 班) と話せなかったこと。
- I、II 班の垣根を超えるチャンスが少なかった。日程の短さ。
- 全員と関わる機会が 1 日目終了であり、発表も聞くことができないため、他のグループとの関わりが希薄でした。
- 内容の価値はとてまありますが、時間が少しタイトで、内容を考える時間がもっとあると良い。

- グループ間の交流があればもっとすばらしいと思った。
- 時間が短かったです。
- Ⅰ、Ⅱ、Ⅲそれぞれのグループでの交流でしたので、全体として交流できる機会があれば良かったと思いました。
- 今回Ⅰ班とは多く話をする事ができましたが、Ⅱ、Ⅲ班の人とはあまりお話ができなかったのが残念でした。情報交換の席は、バラバラの指定でも良いと思いました。
- グループワークの話し合いの時間が少し短かったかなと感じました。
- “具体的に”と記載があるが、抽象的な議論が多いように感じた。紀平先生の質問である「医薬品の品質、有効性とは何か」という議題があっても良かったように思う
- 他のグループとの交流が少なく感じた。
- 第三部 SGD の時間が少し足りないように感じた。
- 時間が短い。
- 時間がタイトでしたが、その中で考えをまとめることができたと思います。
- 討論の時間をもう少しほしい。
- SGD の時間が短い点。もう少し時間あればさらに良い意見を出し、また聞くことができたと考える。
- 一日目の遅れが2日目にまで影響してしまい、議論を詰められていない班が多くあった。内容がタイトルに即していない班もあった。
- 討議に費やせる時間が少なかった。
- SGD などの討論を行う時間が短いと感じた。
- SGD の時間が短いと思った。特に話し合いの時間が足りなかった。
- 同じグループ以外の人と話す機会が少なく交流ができなかった。二次会はグループをまたいでしてほしかった。
- セッション間の休憩がもう少し欲しい。
- Ⅰ、Ⅱの人と関わる事がほとんどなかったなので、グループわけを何度かかえても良いかと思いました。
- 他のグループ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）との交流時間が殆どなかった。
- 朝食、2日目の開始時間が早い。
- 討議の時間をもう少しいただけると幸いです。
- 話題が大きく広がりやすいため、SGD の時間が短かった。模造紙にまとめる際に、フリーに意見を述べられるスペースが必要（少数意見の共有）
- 自分のグループで話し合いが広がりやすいがために収集がつかない。話し合いの場にバサバサ切って、時間内に物ごとをまとめる役目が必要であると実感した。
- 夜が遅くて大変だった。
- 発表で表面的な言葉に決着してしまう点です。私の班は、個性的な考え方の人が多かったなので、ディスカッション中に出てきた具体的なエピソードも含めて共有してみたいです。
- 第2回評価に記述。

- もう一週間、開催時期が早かったらと思いました。(帰省ラッシュのことを心配しないと  
いけなかったのだ)
- 全体で交流する場が少なく、各グループ（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）内の人としか意見を交換することが  
できなかったこと。
- 時間が少しタイトだったと思います。
- 休み時間が少し短かったです。お手洗いにいったせいで SGD のスタートを待たせてし  
まった事が一回ありとても申し訳なく感じました。
- 未来や理想について具体性を求められることはきびしいと感じた。ビジョンは明確であ  
る必要は絶対であると思うが…。
- 各内容についてのディスカッション時間がもう少し長いとより密な話し合いができると  
感じました。
- 1日目の晩ご飯のとき、立ちっぱなしが辛かった。
- SGD の時間が短い。
- 少しテーマが難しいと感じました。
- SGD のグループの人数が多すぎる。司会はタスクフォースの先生が入れば、もっと発言  
できたと考える。
- Ⅰ，Ⅱ，Ⅲそれぞれのグループ内でしか交流がとれなかったことは少し残念でした。
- まだまだ討論に参加できていない学生もいたので、発言できるような環境づくりなど必  
要であるように感じた。
- もう少し他のグループと関わる時間が欲しかった。
- 他のグループと関わる機会が殆どないこと。
- 全体的に少しの時間が短いと感じた。A,B,C 全体での情報共有がもう少しあっても良  
かった。
- 時間がややタイトかなと感じました。
- サポートにまわる際に、意見の統一をしてほしい。
- 夕ご飯の時間が短かった。もっと食べたかった。

#### 4. その他の意見（ご自由に）

- 知らない人との討論は、積極的に参加でき、とても楽しかったです。
- 各大学に寄ると思いますが、この WS に参加しての報告を下の学年にできればと思いまし  
た。この貴重な体験を私 1 人留めてしまうのはもったいないなと思います。
- 緊張して発言できない自分がいました（2 日目）とても後悔しました。いつでも発言で  
きるよう自分を鍛えていきたいと思いました。
- 今回のワークショップを通じて、6 年制を卒業すると必ず薬剤師になる（=臨床現場に出  
る）という、先入観ができてしまっているように感じました。私は院に進学して、ドク  
ターを取得した後に病院薬剤師になりたいと思っているので、ドクター持ちの薬剤師の  
地位を構築したいと強く感じました。

- 夜の食事の際に、先生方が非常に場を盛り上げて下さってとても楽しめました。今回は貴重な時間をありがとうございました。
- できたら情報共有のきっかけになるもので、将来の進路（希望）を名札等につけるなどして、仲間をみつけられたらと思いました。
- このWSの存在がもっと広まって欲しい。
- 非常に充実した2日間でした。下の学年にも伝えていきたいです。ありがとうございました。
- IグループはずっとIとIIグループはずっとIIというように、他のグループの方との交流場があるとさらに良くなると感じた。
- 色々な意見交換や講義を通じて、国試の勉強だけではなく、薬剤師としてできることや臨床で必要になること地域医療への貢献など、学ぶ意欲ややる気が非常に高まった。
- とても貴重な経験ができました。2日間ありがとうございました。
- “具体的に”と記載があるが、抽象的な疑論が多いように感じた。紀平先生の質問である「医薬品の品質、有効性とは何か」という議題があっても良かったように思う
- 食事の一発芸とてもおもしろかったです。
- 学生全員に事前アンケート(実習エピソード等)を集計したらもっと良いディスカッションが行えると思う。
- 低学年のうちから、もっと他大学とふれあうきかいがほしいと思いました。
- 楽しい2日間でした。ありがとうございました。
- このような機会をつくっていただきありがとうございます。
- 今後も絶対に続けていくべきだと思います。
- 自身の不勉強、未熟さを痛感するとともに、それが今後の学習に向けたモチベーション、危機感となりました。
- 貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。ぜひこのような会を続けて頂きたいと思います。
- とても良い経験になった。皆がすごく前向きで自分も頑張ろうと思った。
- 今回参加できて薬剤師としてどうあるべきか育っていききたいか等いろいろと今回できたつながりは大切にしていきたいと思う。
- ここで出会った仲間といつか同じ方向で、仕事がしたいと思いました。
- 今後6回生だけではなく、低回生でもやっていただけるといいかなと考えます。
- ものすごく楽しかったです。そして自分にとって何が苦手な特意的なのか理解しました。発表や意見をまとめることが特意的な人の技術をぬすみ見できました。素晴らしいタスクフォースの方々の話しで自分の視野が狭いことがわかりました。
- 学会の重要性は理解できますが、それに支払う費用があらわす意味が理解できなかった。学生は安いのに薬剤師は高い。でも実際に活躍しているのは薬剤師なのになあと思った。学びたいという意欲をもっと救い上げてくれるような費用設定を考えてほしいです。
- 司会の先生方が、いつも面白くしてくださったおかげで、リラックスしてワークショップに臨むことができました。

- すごく楽しい1日半でした。参加できて良かったです。学校によって学ぶことがちがったりしていてとても勉強になりました。
- 意外と普通の意見が多かった（班による）これから何をすべきか、どんなサポートがいるかというのは、自分個人にとって答えがあっても、全体に適応できることではないので難しいと思った。
- とても楽しかったです。是非この縁を大切にしたいと思います。
- 貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。
- 現場でご活躍されている薬剤師の方々が、いきいきされている姿をみて、私もそんな人材になりたいと思いました。免許がなくても信頼される薬剤師になれるよう、人とのコミュニケーションを大切に、自己研鑽に努めます。ありがとうございました。
- 自分の将来における働き方を考えることができ、有意義でした。
- 楽しかったです。
- 参加できて、モチベーションが上がりました。
- 意見を出してまとめ文章化することの難しさを感じた。たくさん発表できたのはよかった。
- 薬剤師としての責任感や自覚をもち、知識のアップデートをし続ける必要を学びました。
- 1日半という時間は適切だと思いましたが一つ一つの間隔が短く、頭で整理したり、見直す時間があると良かったと思いました（スケジュールがタイトであった）
- 先生方がすごくフレンドリーで緊張をほぐそうとしてくださっている場面が印象的でした。楽しかったです。

# 薬剤師として求められる基本的な資質 に関するアンケート結果

《薬剤師として求められる基本的な資質に関するアンケート調査ご協力のお願い》

質問 1 6年間の薬学教育を通じて、以下の1～10に示す「薬剤師としての基本的な資質」が、現時点で身についた（成長した）と思いますか？ 自己評価欄の該当すると思われる数字に○をつけてください。

「薬剤師として求められる基本的な資質」

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

	ほとんど身につけていない	あまり身につけていない	部分的に身についた	おおむね身についた	十分に身についた
<b>1. 薬剤師としての心構え</b> 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	1	2	3	4	5
<b>2. 患者・生活者本位の視点</b> 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	1	2	3	4	5
<b>3. コミュニケーション能力</b> 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	1	2	3	4	5
<b>4. チーム医療への参画</b> 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	1	2	3	4	5
<b>5. 基礎的な科学力</b> 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	1	2	3	4	5
<b>6. 薬物療法における実践的能力</b> 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	1	2	3	4	5
<b>7. 地域の保健・医療における実践的能力</b> 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	1	2	3	4	5
<b>8. 研究能力</b> 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	1	2	3	4	5
<b>9. 自己研鑽</b> 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5
<b>10. 教育能力</b> 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5

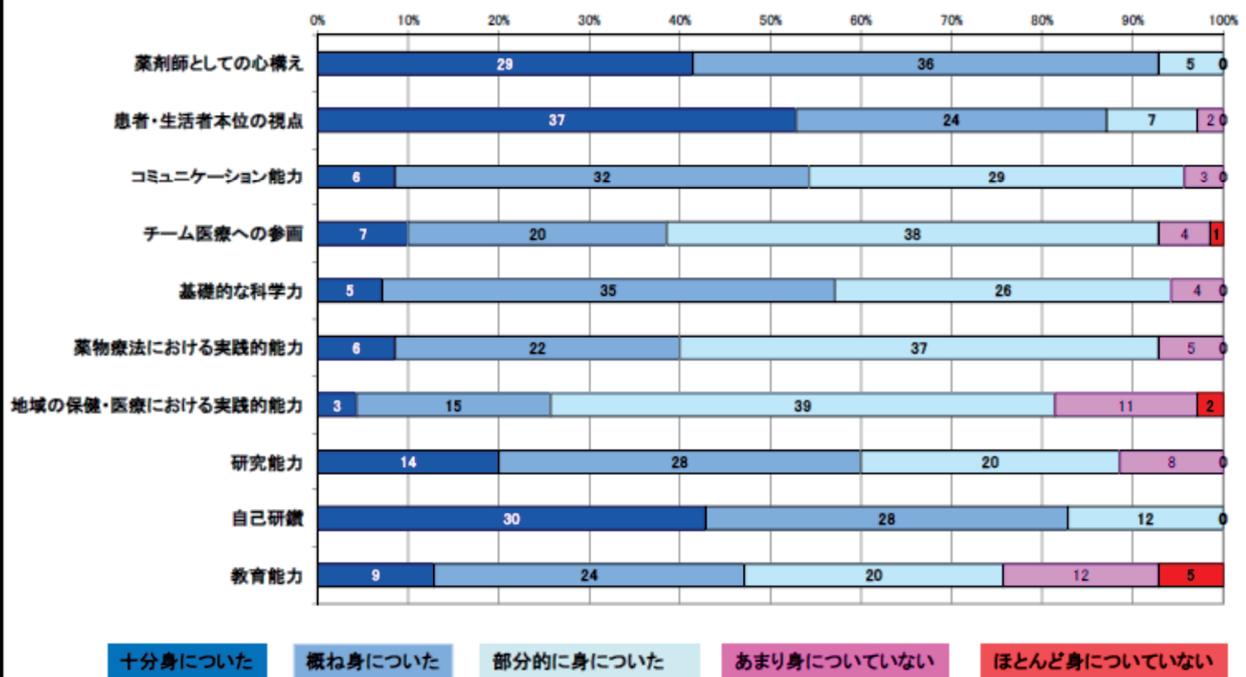
質問2 上記の「薬剤師として求められる基本的な資質（案）」に対するご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

なお、ここで得られた情報は統計資料としてのみ用い、個人が特定できるような取扱いはいたしません。

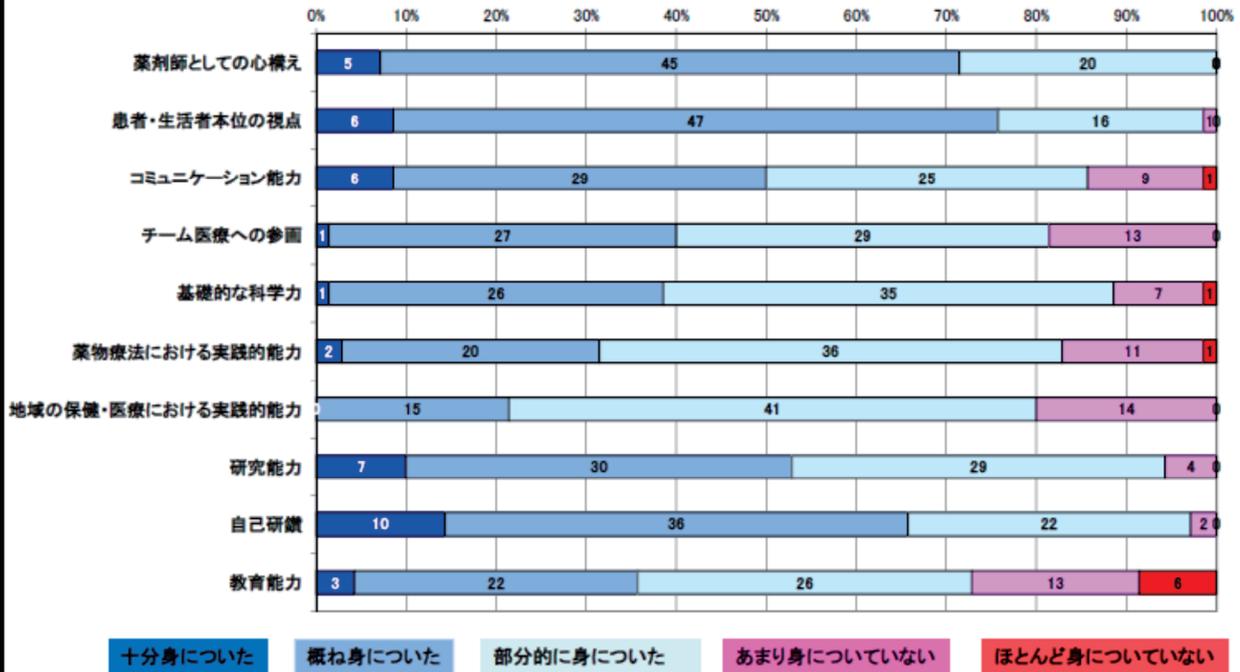
グループ名

氏名

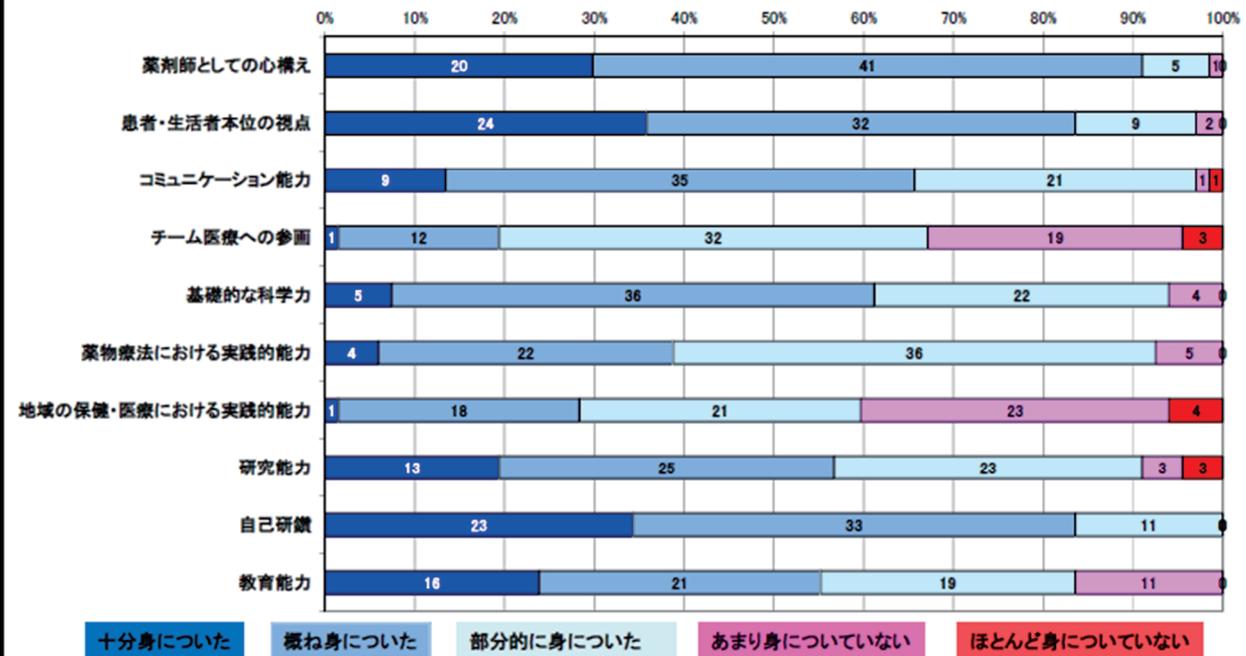
### 第7回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



## 第6回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



## 第2回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



## 質問 2

上記の「薬剤師として求められる基本的な資質」に対するご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

### 第7回全国学生ワークショップ参加者の自由記述

- 今後の医療についてもっと知りたかった（資質として）
- 1. →チーム医療の実習がカリキュラムに組み込まれていたため、他大学に通っていた場合よりも身についたかと思った。
- 5. 8 →理学部に負けている点が多いと感じた。
- 2. 7 は課外活動で習得したが、授業では得られていない。
- 実習先の違いによって、大きく体験できた内容が異なりすぎているところがある。
- 机の上で学ぶこと以上に、現場でしか学べないことが多いので、現場に行く機会が更に増えると良いと思います。
- 実務実習を終えてのフィードバックの場で、コミュニケーション能力の質向上に関して問題となった。
- 医療者間における情報共有、薬学的知見以外からも患者を知る大切さを学びました。
- 薬剤師の職能をアピールする能力が必要かなと思いました。アピールに最も効果的なのは、論文にまとめて世間に発信することでしょうか。
- 10 の項目うち、⑦の健康増進や公衆衛生に関しては、他の項目と比較して6年間であまり携わることができなかつたように思います。
- 教育を受けているので10の項目は達成されないと考える。
- 7. の能力を高められるような実習等があまりないように思います。
- 学内で学んだ知識と臨床で用いる知識の違いを感じる事が出来ました。6年間の薬学教育において「実務実習」の大切さを感じる事ができた。
- 3. コミュニケーション能力について。
- プラスで先入観をなくすことが大事だと思いました
- 研究能力に関して、卒業研究等で多少は関わったものの、自分で問題点を挙げ、それに対する解決方法の検討などに関しては不十分であったと感じました。

## 第7回全国学生ワークショップ実行委員

- 井上 裕文 (福山大学)
- 入江 徹美 (熊本大学)
- 大津 史子 (名城大学)
- 大野 尚仁 (東京薬科大学)
- 大柳 賀津夫 (北陸大学)
- 賀川 義之 (静岡県立大学)
- 川崎 郁勇 (武庫川女子大学)
- 木内 祐二 (昭和大学)
- 河野 武幸 (摂南大学)
- 小佐野 博史 (帝京大学)
- 鈴木 匡 (名古屋市立大学)
- ◎高橋 寛 (岩手医科大学)
- 田村 豊 (福山大学)
- 徳山 尚吾 (神戸学院大学)
- 中村 明弘 (昭和大学)
- 安原 智久 (摂南大学)

発行 2018年2月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第7回全国学生ワークショップ実行委員会